令和８年度　第４回江南市部活動の地域展開に関する推進委員会　議事録

日　　時　　令和８年８月２５日　午後３時～午後５時１５分

場　　所　　ＫＴＸアリーナ　会議室３

出席者　村　良弘委員、岩田正武委員、西浦達郎委員、野沢卓也委員、
村瀬勝弘委員、櫻澤弘章委員、安藤善啓委員、橋本禎枝委員、
植島禎一委員、横山史明委員
委員計１０名
高田教育長、仙田教育部長

欠席者　佐々　恵委員

事務局　生涯学習課、スポーツ推進課

傍聴者数　３名

会議資料
資料１　地域クラブ活動実施に係る継続課題の検討について（案）
資料２　地域クラブ活動からの大会参加の考え方について
資料３　地域クラブ活動の追加種目についての検討
資料４　令和８年９月～３月実施の地域クラブ活動参加応募状況について
資料５　地域クラブ活動体験会の実施状況について
参考資料　　地域クラブ活動試行実践の実施状況について
委員より当日配付された資料
スポ少 OB・OG の部活動地域展開についての動向リサーチ

１　開会

２　委員長あいさつ
（省略）

３　教育長あいさつ
（省略）

４　吹奏楽地域クラブ活動に関する変更事項の経緯と今後の実施について

〇委員長
９月からの地域クラブ活動の運営で一部変更が生じたことから、議題に入る前に事務局からその説明がある。

〇事務局

生涯学習課から吹奏楽に関する地域クラブについて報告する。

江南市教育委員会としては、まずは運動部の休日部活動を地域展開し、その活動が軌道に乗ったら、平日、文化部を展開していく予定であった。それを踏まえ、文化部の部活動の地域展開に関しては、令和１１年度を目標に順次移行していく予定であったが、吹奏楽については先生方の協力があり、指導員や練習会場等において予定よりも早い合意形成を得ることができたことから、今年度２学期より、地域クラブとしての活動を開始していくこととし、関係予算の計上等を進めてきたが、その予算要求が認められなかった。予算がなければ活動に対する支払いもできない。従って９月から地域クラブとして休日の活動はできないので、今年度の休日の活動は地域展開を見据えた学校教育活動の位置づけとしての活動となる。

生徒の居場所づくり、文化芸術活動の機会の確保に努めるべく予算要求を進めてきたが、今回の補正予算要求の中ではできなかった。令和１１年度を目標としていた当初の予定を前倒して、令和９年度の当初予算の中で要求する考えである。

〇委員長

今の報告に対して質問はあるか。

〇委員

何故、予算要求が通らなかったのか。

〇事務局

江南市の予算要求のプロセスについては一定のルールがある。補正予算の要求は緊急性のある事業に限られる。予算の執行は、まず事業の計画を策定し、当初予算に計上し、議会に認めていただいて執行していくのがルールとなっている。そのルールは認識はしていたが、子どもの居場所づくり、文化芸術活動の機会の確保ということで、先生方の協力もいただけたことから、補正予算の要求を財政部局と進めてきたが、やはり予算計上ルールを守ることになった。今回は議会への補正予算の計上は見送りとなった。

〇委員長

そうなると、従来の学校の教育活動の一環としての部活動として、これまでと同じように、令和８年度の９月から３月までは、従来の学校ごとの吹奏楽部で活動していくということなのか、それとも週に２回程度は、例えば合同でやっていくとか、そういう動きがあるのか確認したい。

〇事務局

当初、９月以降は地域クラブとして合同で布袋中学校と宮田中学校が拠点の活動として進めていた。生徒の募集も始めていた。先生たちのご協力もあったことから、９月以降は合同部活動ということで、活動の拠点は従来通り布袋中学校と宮田中学校として合同でやっていくと聞いている。

〇委員長

土曜、日曜は、学校の部活動としてはやらないのか。

〇事務局

土日も合同の部活動になる。布袋中学校で集まってやる生徒もいれば、宮田中学校で集まってやる生徒もいる。

〇委員長

それは地域展開と変わらないのではないか。

〇事務局

地域展開を見据えた活動になる。

〇委員長

予算要求ができなかったというのは、その予算ではないか。

〇事務局

学校部活動という流れになるので、今まで通り教育課予算で執行、合同部活動という形で進めていく。

〇委員長

この冬に大会、演奏会があるとしたら、合同部活動の方で出場すると考えてよいか。

〇事務局

そのように考えている。

〇委員

その予算は学校単位になるのか。

〇事務局

今まで通りの部活動の予算になる。

〇委員長

この件はこの程度にして、本来の議題の方に入る。

５　議題

（１）地域クラブ活動実施に係る継続課題の検討について（案）（資料１）

〇事務局

休日の部活動の地域展開の推進のため、昨年度、今後の検討等として協議し抽出した課題と、今年度、生徒、保護者に実施したアンケートから、継続して協議が必要であると考えられる課題を資料１としてまとめた。

まず、表の説明をする。左の欄は、５つの課題項目を挙げた。中央の欄は、上段に課題項目に係る令和８年度方針（要約）として、今年度の方針の内容を記載し、下段に令和７年度の協議内容として、方針に至る協議内容を記載した。右欄は課題への今年度の対応や、今後検討すべき事項を掲載し、あわせて今後の方向性の案を載せた。これは今後の協議を進める案であり、委員からの意見をお願いしたい。次ページには、参考として令和８年度９月時点の近隣市町の状況を表にした。本日は、各課題項目の現在の対応状況と検討案について説明する。次回の会議からは、それぞれの課題の検討と具体的な方向性について、委員の意見をいただきたい。

それでは、課題項目の１から５までを説明する。

１は「持続可能な安定的な活動の実施について」で、この課題で特に検討すべき事項は、地域クラブ指導員の質・量ともの充足である。そのために、指導員募集チラシを作成し、各学校、市役所職員へ知らせるとともに、アリーナ内でもポスター掲示にて啓発、各学校へ兼職兼業での指導協力の依頼をした。また、この取り組みについて、地域への周知と連携をお願いするため、企業への協力要請に着手していく。なお、指導員の資質向上を目的として去る８月１日に今年度初回となる指導員研修会を実施した。出席者は午前の部、午後の部合わせて４９名であった。年度中に複数回の開催を計画している。引き続き検討していくことは、国のガイドラインに示される地域クラブ活動の認定制度の考えに沿った江南市の認定制度を策定し、市が運営・実施する地域クラブと、市が認定するクラブとともに、地域展開を拡充していくことである。また、取り組みが保護者、地域住民に十分認知され、支えていただけるよう、入学説明会や保護者会等の機会の利用、ホームページ、広報誌などを活用し周知を図ること、行政と学校がともに周知、広報をしていくことが必要であると考える。あわせて今後の方向性の考えは、喫緊の課題となる指導員の確保のため、学校、市内各団体との連携を強化していく。また、必要であれば、専門的資格を持つ指導員を含め、謝金の増額改訂を検討する。そして、国や県の動き、さらには市の財政状況等を鑑みながら、江南市の部活動改革の目標を、国が示す休日の部活動の地域展開の改革実行期間の前期である令和１０年度末までに新種目の増設を含めた休日の部活動の地域展開

の充実を図り、改革実行期間の後期の終期である令和１３年度末には、各中学校の部活動改革の動きに合わせて、平日の部活動を含む学校部活動の地域展開を目標としていく。

２は「活動場所の複数化等の実現について」で、現在の拠点校での活動については、利便性の面でネックとなっており、生徒や保護者から多くの意見がある。この課題については、指導員とも意見交換を続けているが、指導員と各学校から参加する生徒の充足の面で、まだ解決には至っていない。９月からのバレーボールクラブの追加募集の際には、活動場所を増設し参加要望に対応した。９月からの実際の参加状況や参加者の振り分け方法等を確認し、生徒の参加しやすさへの配慮を計画していきたい。その検討の中で、同一種目において、活動場所により指導方法等で格差が生じないよう、指導員間のすり合わせをしていく必要がある。学校部活動同様、全ての参加希望者の受け入れを可能とする体制整備をし、通学する各学校での地域展開ができることが理想である。

３は「文化部を含めた新規実施種目と指導員の確保について」で、後ほど説明するが、新規実施種目の選定の資料として、実施したアンケートで希望種目を聞いた。スポーツ、文化種目及び軽スポーツ系で多数の希望があったので、地域クラブ活動として実施可能な種目と、それに伴う指導員の有無を検討することが必要となる。前回の会議で意見があったように、軽スポーツ種目への認知拡大のため、「楽しみん祭」への積極的な生徒の参加を呼び掛ける。地域クラブ活動として設置できない種目は、現在活動中の既存のスポーツ、文化団体での、普段の活動の中に生徒を参加できる機会を増やすことも考える。

４は「地域クラブ活動としての大会参加について」で、活動のモチベーションを保ち、活動の成果を試す場として、地域クラブ活動として大会出場の機会を確保していきます。この件につきましては、試行実践の段階から、生徒、保護者とも、関心が非常に高いと感じている。次の議題２で説明するが、今後、地域クラブ活動として大会に出場する場合、これまで学校部活動として公費で参加していた大会の参加を支援していきたい。さらに、例年、各学校単位で参加していた大会についても検討していきたい。今後、地域クラブから大会出場をする場合、毎年の参加者募集と大会参加登録のチーム編成の関係で、日程調整が必要となることも考えられる。それぞれの大会要綱等を確認しながらの事務となることから、これまで学校部活動からの大会参加に当たっての情報や事務手続きの伝達をお願いしたい。大会当日の運営を含め、当分の間は、学校部活動顧問教諭の指導員登録について、ご理解とご協力をお願いしたい。

５は「実施種目毎の受益者負担額の見直しについて」で、江南市の地域クラブ活動は、生徒の居場所づくりとして、参加をしやすい条件とするため、今年度、１回５００円の参加料のみの負担としている。

昨年度の協議にて、公平な参加機会の平等と保障のため、就学援助制度該当世帯への支援として、今年度９月から参加料のみを免除すること、令和９年度から、種目毎に適正な参加料を算定すること、また、スポーツ安全保険料の公費負担について検討することを方針に盛り込んだ。現在、来年度の予算編成の積算のため、

地域クラブ指導員に必要な予算の見込みの報告を受けたが、その金額を参考として、種目ごとの参加料の算出を検討する予定である。江南市の財政状況や、この事業に対する公費の投入等、予算編成の考え方によることとなるが、先ずは近隣市町の状況も参考としてスポーツ安全保険料の受益者負担の検討が必要である。あわせて、参加者の出席率の向上等を鑑み、参加料とは別に、登録料又は年会費等の徴収を検討していきたい。なお、認定制度の進行次第で、認定地域クラブ内での費用の徴収や免除の方法も検討していくことになる。受益者負担については、アンケートの意見は様々だが、市の事業として地域と連携した持続可能な安定した活動としていくため、保護者へ丁寧な説明をして納得してもらうことが必要である。課題につきましては、これまでの試行実践の原則月２回から、本格実施の原則月４回に活動が増えることにより新たな課題も予想されることから、各委員から意見をいただき、協議しながら推進していきたい。課題を検討した結果は、今年度中に策定を予定する令和９年度からの地域クラブ活動推進計画の内容に反映させていくことを考えている。

また、この推進委員会に先立ち開催された実行部会での委員の意見を報告する。

１点目は、大会のことについては事務局も把握できていないので、学校部活動の先生とは密に情報の共有を共有させていただき、また、引率も含め大会だけでも先生に指導員として関わっていただけないかとの意見があった。

２点目は、学校の施設の制約から、その種目の活動には適さないところもあるかもしれないので、その把握に努めるべきだとの意見があった。事務局として改めて確認していく。

３点目は、スポーツ保険の加入保険料については受益者負担を考えていくが、国や県の補助金が対象経費の３分の１ずつ出ているので、そういったところも含めて検討したらどうかとの意見があった。

〇委員長

まずは課題項目１から３までについての意見、質問等はあるか。

〇委員

平日は学校単位で活動を行うということに決まっていると思うが、どうやっていくか具体的に考えられているのか。実はこれは私の子どもが通っている学校だけの話かもしれないが、この夏休みは部活動としての活動は一切なかった。１学期で部活動が終わるという具体的な説明は、親には実はなかった。例えば、書面なり何か通知されていればまだ分かるが。一般の親御さんは学校単位でやらないことに対し、多分リアルに感じていない。なぜ夏休みは何もないのかという親御さんの声を聞いた。この辺の共有とか趣旨を親にも伝わるように何か考えてほしい。

〇委員長
　これまで夏休みに活動していたものがなくなったということについて、周知していないのかは分からないが、基本的には学校部活動は学校教育の一環としての学校教育分野での活動なので、それは各学校の校長を中心としたと学校運営の中での話だと思う。

〇委員
　これは宮田中学校だけの話ではなく、他の学校がどうだったのかというのも含めて聞きたかった。

〇委員長
　夏休みの活動については教育課でも把握しておらず、全部は分からないと思う。各学校ごとに、さらに種目によっても違う。それは今までもそうで、何々部は毎日のようにあったけれど、何々部は週３日という感覚と同じだと思う。やった部活もあればやっていない部活もきっとある。ただそれが保護者に伝わっていなかったというのは大きな問題だと思う。

〇委員
　１学期中に文書を発出して、中小体連の大会は夏で一区切り、勝ち進んで管内、西尾張、県、東海、全中と進めば８月の後半まであるが、その大会で勝ち進んだところまでで一区切りにして、９月には新たな部活動の形を作りますという連絡は行った。そのタイミングは１学期の５月、６月で、テトルで配信した。これは宮田中学校の話であり、学校によって夏休み中の取り組み方が違う。５校あるうち暑さ対策も含めて切り替えの時期なので、一旦従来の部活動は一区切りとする学校が比較的に多かった。ただ、駅伝に関してはまだ継続中である。宮田中学校に限った話かもしれないが、駅伝の練習は継続的に、夏休み中も涼しい早朝に部活動を続けてきた。そういう状況ではあるが、保護者に学校の考え方が適切に伝わっているか、出した文章を再確認する。

〇委員
　大会が終わったところで終わりということを、今の３年生の親は今までの流れから多分受け入れているのでいいが、２年生の親からは、夏休みは何故何もしないのかとの声を聞いた。先日、コミュニティスクールに参加したが、学校単位で、夏休み用の企画等をいろいろ考え、実践されている話も聞いた。部活の方も何か一工夫欲しかったと感じている。推進委員会には直接的には関係ないかもしれないが伝えておく。

〇委員
　課題１の検討案の３番目に保護者を始め云々とあるが、これまで推進委員会の委員からも、もう少し丁寧の説明をしてほしいという意見があった。本日、

参考資料を配付したので詳しく説明させていただきたい。地域クラブへの参加者が増え、それに伴い指導者募集について協力を求める説明が、前回の推進委員会であったことから、スポーツ少年団では、団に関わったＯＢである中学校１年生、２年生の動向調査を行うことになった。その結果、もしスポーツ少年団のＯＢたちが、市が実施している地域クラブに参加しているなら、それが指導者を増やす契機になるのではないかと考えた。まずは中学校１年生、２年生を対象にしたが、小学校６年生も対象にした方がよいのではないかとの話もあり追加した。その中でデータとして見えてきたことは、理解があまりされていないことが浮き彫りになった。小学校６年生はＯＢから聞いたかもしれないが、理解はある程度はなされていると感じられるが、一番最初にこの問題に入り込まされた中学校１年生、２年生とその保護者の理解は低いのではないかとの意見が出てきた。やはりもう少し丁寧な説明がなされた方がいいのではないかということが出てきた。それがこの検討案の中のこの部分につながっていくと思う。

また、スポーツ少年団では、毎年、男女ともに１００名程度の卒団生を送り出しているので、配付した動向リサーチの１ページから１０ページについては２００名に対しての回答数になっている。１１ページ以降は小学校６年生への調査結果であるが、回答率は男子６４パーセント、女子が７１パーセント、合計では６６パーセントであった。

〇委員長

委員の意見は、地域展開の考え方が保護者や子どもらに十分伝わっていないのではないかということだが、事務局はその辺をどう考えるのか。

〇事務局

９月からの平日の部活動が各中学校でどうなっていくかについては実行部会でも取り上げられた。全学校までは把握されていなかった。平日になるが週３時間やっていた部活動を２時間に、あるいは３日やっていたものを２日にするとかであった。他には部活動ではなく、サークル的な活動に変えていく学校もあるようで、学校ごとで異なってくる。先ほど言われた例えばランニングは、まだ学校で出場されていくと思われる。文化系の吹奏楽はまだ平日でやっていかれると思うが、運動系の部活動は土日は完全になしという形になる。試行期間中は土曜日、日曜日の学校部活動があり、地域クラブもあった。このことが多分分かりづらかったと思うので、今一度、今後各学校の平日の活動がどういう動きになっていくかも踏まえて、地域展開について周知していく。

〇委員長

学校においては、９月からは休日の運動部はないことについての周知はされていますね。

〇委員
　周知している。

〇委員長
　子どもらに対して、土日にはもう学校の部活動はないということを徹底しているという認識でよいか。

〇委員
　はい。今の１年生と２年生は、小学校６年生のときの学校説明会において市職員から、中学校に入学後、令和８年９月以降は土日は学校ではなく、地域クラブとしての活動になる説明がされている。２年間行ってきたので、生徒、保護者に伝わっているものと考えている。

〇委員
　前回の会議の中で、学校として今後の周知をどのようにされていくのか。校長先生方に具体的な案の検討をお願いしたが、校長先生方の間で具体的な方策は出たのか。

〇委員
　周知するための具体な方策まではできていない。

〇委員
　２年間、事務局や学校が説明会等でしてきたのは間違いないと思う。これは保護者側がきちんと聞いていないところもあるが、それでも伝わってないことは事実なので、このスポーツ少年団のアンケートの３枚目の一番上になるが、２学期以降の部活動について、地域クラブに入っていないと中小体連の主催の大会に出場できない可能性があるということについて、ご存知でしたかという質問で、「知らなかった」とする回答は５７．９パーセントになっている。これが一番重いと思っている。地域クラブに入っていないと、２学期以降の大会に出られない可能性がある。陸上は学校でやるとかはあるが、他の運動部は、地域クラブ単位で出ることを把握できてない方が ５７．９パーセントいる。その中で、２学期に地域クラブに入りますか、入りませんかと子どもらに問いかけている。例えば、宮田地区の生徒が布袋中学校に、布袋地区の生徒が北部中学校に行ってまでとなると、送り迎えも大変だし、お金もかかるから、やらないという選択をしました。平日学校でやる練習だけでいいです。しかし、大会に出られないってことを知らないまま、地域クラブに入らないっていう選択をしている場合、学校で練習していても大会には出られないなんて知らないという話になってしまう。事務局は説明しました、学校も説明しましたとなるが、それでも保護者や子どもらは分かっていなかった。そんなことを知っていたら最初から地域クラブに入ったのに、みたいな話に絶対になると予想できる。従って、本格実施が９月から

スタートするが、今後追加募集もされていくということなので、これまで事あるごとに説明をされてきたが、それでも伝わっていないことを全体として受け止められたい。年１回か２回、学年懇談会や保護者会で説明するとか、いろいろ方策はあると思うし、加えて、伝わる周知を考えていかないといけない。この２学期や３学期の間にそれなりに問題になって、不満やクレームも出て、それが下の世代に伝わっていくので、来年以降の子どもらは理解すると思うが、今の１年生、２年生は、２学期からのこの選択で大きなものを失うかもしれない。そこを一番危惧するので何か考えていただきたい。校長先生方には強くお願いをさせていただきたいので、そういう方策を具体的に学校としても考えていただきたい。校長会が開催される直前５分でチラシによる依頼などがあると思うが、その枠で結構なので保護者代表として、周知、徹底についての検討を依頼しに伺いたい。それはまた別の話になってくるが、これはそれぐらい大事な問題だと思う。

〇委員長

中小体連の大会は、２学期以降は基本的には夏の全国大会で終わりとなる。あとは大体、連盟や協会の大会で、これまでは学校の部活動として登録をして、クラブチーム、学校名でもいいが、登録費を払って参加してきた。連盟、協会の大会は秋口以降もあるし、これまでも参加してきたという実態がある。委員が心配されている危惧はあるかもしれないが、大会参加については最終的にクラブチームで参加するのか、あるいは学校で参加するのか、中体連の動きがはっきりしない中で、どうしていくのかというモヤモヤした気持ちが続いていたが、恐らくはっきりしてくるので、大会参加はクラブチームで参加していくということになれば、今のような問題をはっきりしていく必要があるので、これからきちんと周知をしていく必要性はある。

〇委員長

課題項目４、５を含め、意見、質問等はあるか。

〇委員

２学期以降、活動のあり方が大きく変わって、地域クラブ活動で参加になっていくことを知らない方々がこれだけ多いというのはちょっと正直ショックである。いろんな話題の中で、指導員の謝礼などは子どもらにとってはあまり関係なく、関係があるのは９月からは今の部活動は全部解散するので、もう一度、地域クラブに参加し直しになることである。練習は通学校ではなく別の中学校になる。それが地域展開であることをきちんと話して、もう一度子どもらの意識を確認することが大事である。子どもらになくなることをはっきり言った方がいいと思う。大会の参加も今のチームでは参加できない意識があると、それでは地域クラブに参加しようか、どの種目に参加しようかなどの話になってくると思う。子どもらに「あなたたちはどう決断しますか」ということを投げかけるような周知の仕方は一つ必要かと思う。これは中学校側の課題が多いかと思う。

やはり大会参加については非常に難しい話である。指導者の問題、引率者の問題、組織の問題、ユニフォームの問題等々、切がないほど話題が出てくる。今までは学校の先生たちが全部抱えていたものを一旦地域に出すので、当然いろんな問題が起きてくる。中学校での周知の仕方や活動の仕方は、この推進委員会の話題ではないと思う。このようにやっていくので、中学校に協力をお願いすることは言えると思う。

〇委員長

９月から体制が変わるが、周知が十分でないところもあるため、これからでも遅くはないので、学校を通してということになると思うが、説明していくことが大事である。事務局にはお願いをしたい。

〇委員

軟式野球のチームのことだが、９月に入ってすぐに大会があるらしい。その大会に出られるのは、今まで試行実践に参加していた生徒のみだという話になっている。新チームになっていきなりメンバーを組むのがなかなか難しいという事情があると思う。そんなことならもっと早く試行実践から参加していたという子どもが多分いると思う。要は大会がいつあるかは予め分かっていた話で、出られませんという話を聞いたのが、この７月末という本当につい最近の話である。それは段取りとして悪いのではないかと感じた。もしかしたら、出られないとは聞いてないという声があるかもしれないので、その辺の調整はもう少し綿密にしていただきたい。大会日程は年間スケジュールが出ていると思うので今後検討されたい。

〇事務局

軟式野球のクラブがこの秋の新人戦に出ることは、部活アプリ上のやり取りで確認している。指導員には、必要に応じて参加の状況を確認したいと考えている。ただ、ベンチに入ることができるのは最大２０人と聞いており、無制限に入れる訳ではないということも承知している。地域クラブは、希望する参加者を制限しないが、その中でベンチ入りして選抜されるかはまた別の話である。試合に出たい、出たくないという気持ちを確認する必要もある。委員の意見は、担当指導者にも伝えたい。

〇委員

以前、部活動を担当していたが、大会のスケジュールへのエントリー登録の締め切りが結構早いところもあった。顧問として行くのだが、運営に携わったり、人とお金がどうしても動く。エントリーシートの締め切りや、提出方法も違うので、なかなかスケジュールどおりにはいかないところがある。また、協会の大会はいいが、有志が作ったような大会になると、３日前というような突発的な大会があるなどいろんなケースがある。出る大会もある程度精査していかなければ、

それこそまた受益者負担も大変になるし、指導員の負担も増えてくると思う。ただ、それらは１年掛からないと分からないとも思う。そういう部分も一度検討していく必要がある。

〇委員長

江南市の地域クラブとしてどの大会に参加していくのかは、市が運営主体になっているのである程度の定めが必要である。有志の大会があったり、何かの大会にも出たいと思う子どももいるだろうし、ひょっとしたら指導員の中にもあるかもしれない。それも大会の参加の関係で今後の課題にはなってくる可能性はあるか思う。

〇委員

参加者が多い種目を複数に分けるのであれば、大会の参加を前提に分けることも大会にスムーズに参加できる要素の一つかと思うので検討をされたい。

〇委員長

長年協会に関われているので、そのような心配をされてみえると思う。事務局はご意見として伺ってほしい。

２番の検討案の最後に「学校部活動と同様に各学校での活動を可能とする体制づくりを目指す」とあるが、それを目指していくのか。

〇事務局

２年生、３年生や保護者へのアンケートでは交通の面についての意見が非常に多い。可能であれば通学している学校でやりたいという意見が多いことから、チームとして成り立つ人数がある程度集まり、そこへの指導者も確保できれば、地元の中学校でやらせてあげるのが一番いいと事務局としては考えている。

〇委員長

この地域展開が始まったのは、働き方改革が一つ大きな柱であるが、もう一つは少子化の問題があって、江南市でも西部中学校や宮田中学校は、生徒数が徐々に少なくなってきている。単独の学校で活動できない状況になってくる可能性があるので、今回思い切って合同でスタートをしたと思う。合同でやっても人数が多ければ、２つ作っても別にいいとは思うが、今までと同様に各学校での活動を目指していくのは少し違和感があったので伺った。各校、それぞれに参加者が集まればいいが、それだったら地域展開せず、今まで通り各学校でやればいいのではないかとなる。

〇事務局

各学校でやろうとした場合に、今指導者が足りない現状がある。

〇委員長

ならば、最初から教員が兼職兼業でやればいいとなってしまう。業者に頼んでやればいいという話になってしまうので、どうなのかという気はする。

〇事務局

現在、バレーボール、ソフトテニス、卓球などは参加者が非常に多い。そういう多いところに参加している生徒さんにとってみれば、やはり地元の体育館等での活動が一番理想ではないかと思う。人数が多くても統合という一番最初の目標があったので、今はその１箇所の学校まで行ってもらっている状況である。中学校ごとにその種目も限られるが、必要な指導者数が確保できればそうしたい。また、学校によっては軟式野球のバッティング練習ができない、サッカーの試合に必要な面積がないなどの状況もあるので、練習会場には適さないところもある。そういう場合は、練習できる近くの学校に行ってもらうことになる。各中学校を拠点として実施する意味ではない。

〇委員長

要するに人数の多いところは、各学校単位でもやれるなら、そういう方向も考える。指導者確保、会場確保をしていける体制があれば、各学校でやっても構わないという意味でよいか。

〇事務局

そういうことである。

〇委員長

「地域クラブ活動種目は」とあるので、全部の種目が各校ごとでやっていくのを目指すのであれば、少し地域展開の趣旨とは違うかと思ったので聞いたが、分かった。参加者が多い種目については、学校ごともあり得るということである。

〇委員

今の話は、学校によって環境は全部変わってくるということである。そういった部分の説明が子どもらや保護者に対して必要になってくると思う。スポーツ少年団のアンケートの中にも出てくるが、どこで何をやっているか分からないという回答がある。それは市に問い合わせれば分かることだが、そういう質問が出てくるのは、ここで何をやっているというアピールをどこでしていけばいいのか。それが市のホームページでなされるべきものなのか、学校の方から説明されるべきものなのかに繋がっていくと思う。その辺はどうしていくのか。

〇事務局

各校学の先生方に協力してもらい、情報はテトルで全中学生の保護者には発信してきた。各種目の活動がいつ、どこで、実施されているかの情報も市のホー

ムページで一覧にして掲載を継続している。前回の会議で委員から意見があったが、テトルで配信しても見ない保護者も多い。読んでもらえないとなると、あとは口コミぐらいしかないのかとも思う。

〇委員

確かにテトルをなかなか見ないというのは正直あるが、市のホームページを見に行くという選択肢は、多分、ほとんどの市民にはない。市民が江南市のホームページを疎かにしている訳ではなく、そこを見に行く発想がそもそもない。それではどこを見に行くかといえば、学校のホームページを見に行っている。例えば、部活動の地域展開のことは学校のホームページをご覧くださいといった文章が学校から送られ、あるいはテトルで配信され、それが記憶の片隅に残っていれば、親があれってどうなっているのかと思った時に、学校のホームページには行く人の割合は多いだろう。学校ホームページには、配布物一覧や、災害時の対応、また、１年生向け、２年生向け、３年生向けなどいろんなページがある。私のアイデアだが、そこに部活動の地域展開というページを作っていただき、そこにどんどん更新記事を載せていく。例えば、バレーボールは活動拠点がいつから、どこに増えますとか、大会参加はこうなりますとかを載せていく。それが学校で更新するのは大変かもしれないので、市が更新するページへリンクできるよう学校側のページ内にリンク先を載せる。結局、我々保護者が頼りにするのは学校、あるいは現場の先生なので、市に問い合わせる先に何でも学校に聞こうとしてしまうし、学校のサイトを見ようとするので、そちらに協同して作ってあれば事務局が頑張っても届かないものがもう少し届きやすくなると思う。

〇事務局

大変ありがたい提案である。学校の方の許可あれば、市ホームページへのリンク先を学校のホームページ内に掲載していただきたい。

〇委員長

委員が言われるように子どものことになると、市よりも学校が頼りになる部分がある。そのためにこの会議に校長会から参加していただいているので、協力して学校を通じた周知もする。いろんな方法で周知をしていかないと、知らなかった、聞いていないという話も出てくる可能性はあるので、中学校部会だけでなく、小学校部会も同じだと思うので、先生方に協力していただければありがたい。

〇委員

先日、指導者の研修会に参加した。非常にいいタイミンで勉強になった。研修も年数回あるし、ハラスメントの関係もこの１２月にこども性暴力防止法が施行されるのでこれでいいが、実際倒れた時にどういう対応をしたらいいのか、骨折等も含めて年間何回かの研修の中にそういうカリキュラムを作り、現場の指導者が必要だと思う研修を何回も繰り返すことによって、現場の方でもいろい

ろな対応ができると思う。知識が知恵として現場で活かされる形になると思うのでこの辺も少し検討をされたい。

〇事務局

昨今、熱中症アラートが連日続くということで、蘇生法についても消防署に指導をお願いできないかと事務局で検討している。指導員が消防署で研修を受けるような形でできたらと考えているが具体的には決まっていない。早ければ今年度内にはもう１回ぐらいは実施したい。

〇委員

２番にあるが、活動場所の複数化の検討を進めていただき、これは本当にありがたいと思っている。複数化になった時に、どこに行くかは、子どもが選択可能なのかを伺いたい。

〇事務局

どこの会場でやるかは子どもが選択できる。

〇横山委員

チームが二つあった場合、一方のチームばかりに希望が集中しても仕方がない。

〇事務局

現在複数化している種目は同じ定員で募集している。

〇委員長

各市町の状況一覧が参照資料として配付されているが、これは参考程度に見ておくことでよいか。江南市と各市町とでは体制が違う部分がかなりあるものの、情報交換などはされているのか。あるいは、江南市で情報収集したものを一覧にした資料ということでよいか。

〇事務局

参照として提出した。

〇横山委員

この表で、一宮市の兼職兼業の教員の人数が１００人となっているが、要因を把握しているか。ざっくりとした人数にしろ多い。

〇委員長

規模が江南市とは違う。中学校でいっても、たしか１９校ぐらいでかなり規模が違う。

〇委員

そうだとしても比率で見たら全然違う。

〇委員長

一宮市に何かで問い合わせることがあれば、１００人という多さ、加えて兼職兼業の条件をどうクリアしていったかも聞いてもらうといい。

それでは議題１はこの程度にして議題２に移る。

（２）地域クラブ活動からの大会参加の考え方について（資料２）

〇事務局

これまで学校部活動からの大会参加については、参加費、電車代、弁当代などは、各学校からの補助金申請により各学校に補助金として支出してきた。地域クラブからの参加の場合の大会参加の考え方について、現在までに整理したものを説明する。

資料の２になるが、一つ目として、これまで学校部活動において、公費、市からの補助金を活用して参加してきた大会については、指導員と協議の上参加する。

二つ目として、これまで補助対象外であったものの、各学校ごとに工面した資金 PTA 協力、資源回収収益などで参加してきた大会については、参加する大会を指導員と選定、協議の上、参加を検討する。大会が少なくなる秋以降の大会、新人戦を想定している。

各委員に、この資料を配付した後になったが、この部分の大会参加を市の予算で賄うことについては、市にとっては新たな財政負担になることから、財政担当課と調整を続けてきたが、予算が措置される見込みがない状況にあることを報告する。このため、資料中、②については無くす考えである。

三つめとして、当分の間、大会参加に必要な参加料、登録料及び旅費相当額は、予算の範囲内で公費で賄う。ただし、大会現場までの引率（往復）が保護者等による場合は、旅費相当額は支給しない。

次に、３の参加大会の選定等になるが、①としては、参加大会の選定については、代表指導員と進めていくことになるが、過去の参加実績にとらわれ過ぎることなく、活動生徒の気持ちやチームカラーを尊重した上で決定したい。

②としては、大会要項が規定する引率者（指導員）が、実際に確保できることが参加の前提になる。

地域クラブ活動からの大会参加については、以上のような考え方を持っている。

それに沿った形で、事務取扱を定めることも考えている。資料は次ページになる。事務取扱の構成は、目的、定義、参加料等及び旅費となっているが、枠で囲

った部分、対外試合の定義は、現在、教育課で施行されている「江南市児童・生徒の対外試合等派遣による補助金交付要綱」の定義と同じである。
　これまで学校部活動から参加していた大会の参加を検討していきたい。
　「４　参加料等については、」は、「対外試合等派遣による補助金交付要綱」では、「県大会以上の大会を対象」としており、同様の取り扱いを考えている。配付資料は、各種連盟主催の大会参加に参加料などの予算措置を前提に網掛け、削除線を入れたが削除はせず、これまでと同じ扱いにする。
　なお、予算の編成は、歳出科目についても、今説明した科目でなく、別の科目で支出することになる可能性もある。

〇委員長
　②を削るということは、この認定地域クラブ活動から参加するのは、基本的に公費で出られるのは中小体連の大会だけでよいか。

〇事務局
　詳細な定義になると資料６の第２条の各号になるが、中小体連が主となる。中小体連の大会については、地域クラブになっても予算的な応援をしていく。中小体連の大会が終わった後の秋以降は、これまでもＰＴＡ予算や個人負担も含めて学校ごとに、チームごとに参加に向けて努力され参加されてきた。

〇委員長
　簡単にいうと、中小体連の大会参加についてはこれまで公費が支出されてきているので、これについては地域クラブとしても参加できる。それ以外の協会主催の大会は秋以降に結構あるが、そういう大会については、今まで学校体位で学校がそれぞれ独自でいろんな経費を出していた。今後は認定地域クラブとしては支援しないということである。
　ただ、大会参加を制限するものなのかは確認したい。チーム全体で受益者負担的なものを出してでも大会に参加したいのであれば認めていくのか。それとも地域クラブとしては中小体連だけとしてしまうのか。

〇事務局
　大会に参加したい思いで活動しているならば、中小体連以外であっても大会参加を止めることはない。また、指導員が大会現場で監督などとして従事している時間は勤務時間だと考えている。

〇委員長
　そこは練習時間が試合になっているだけの話である。

〇事務局
　大会参加の引率も指導員の業務として位置づけられている。

〇委員長
　協会主催の大会であっても、計画に入っていれば、指導員への謝金は支払うことになるのか。

〇事務局
　払う。ただ、現地集合の場合の交通費については決めかねている。

〇委員長
　そこもはっきりしておかないといけない。秋の大会に出たいといっても、公費負担はない。その辺を整理しておかないといけない。

〇委員
　通常の活動に加え大会の引率もとなると、謝金の予算が苦しくなるのではないか。

〇委員
　そこは調整するしかないのではないか。

〇事務局
　現地での引率指導員がいないと、そもそも出られない。

〇委員
　大会ばかりに出ていると、月４回の活動日が全て大会ということになりかねない。従ってある程度の調整は必要になってくる。

〇事務局
　年間にどういう大会があるのかを含めて、今まで指導されてきた先生方にご教授してもらいたい。種目ごとに違うので、各種目ごとにノウハウを伺いに行きたい。

〇委員長
　本当に種目によって異なると思う。

〇櫻澤委員
　最近、高校生の保護者が運転するバスで事故があったなどのニュースがあったと思う。指導員の仕事に、大会引率も入っている。責任の所在もそうだが、緊急時の対応マニュアル等を指導者は持って臨んだ方がいい。やはり慣れていない方だとなかなか大変で、そういった時に何かトラブルが起きると非常に大変である。その辺のところをもう少し検討されたい。また、保護者による他の家の

子どもの引率に関してだが、自動車事故が起きると、多分その方の自動車保険の範疇になる。今は訴訟時代なので、その辺の責任範囲も明確にして保護者の方に送迎してもらうことが長く続ける上で必要である。

〇委員

参加料は５００円と決まっていて、親の負担はそれで済んだと思っている親がほとんどだと思うが、大会の参加費用とか、ゆくゆくはユニフォーム代なども必要となってくる。クラブに加入した際に部活アプリで、今後これだけの費用が必要になってくると想定されますというような事務的な案内を作った方が運営側としては安全ではないかと思う。多分、軟式野球だとその人数が多いので、エントリー代に対して人数割は安く収まると思うが、ユニフォーム代はそんなに安くはない。その辺も含めて、お金のことは早めに案内した方がいい。

〇委員

先ほど、議題１でスポーツ保険に係る受益者負担の話があった。何年度からはスポーツ保険が受益者の負担になることも含めて、保護者に知らせておいた方がいい。

〇委員長

９月から始まる秋の大会に参加したい地域クラブも出てくると思うので、その辺もはっきりさせていかなければいけない。それがスタンダードというか指標になってくる。一度、大会参加に対する指導者の考え方を掌握しておく必要があるような気がしないでもない。地域クラブとしてどんな大会に参加していきたいのか指導者によって異なるような気がするので、早めに対応した方がいいのかなという気がする。その場合の費用は市では持てないので、チームで持ってもらわないといけない。参加者全員からの負担なのか、選抜された選手だけでの負担なのかは分からないが、それは個人で負担していくことになる。そういうこともきちんとしていかないと、大会に参加できないことも起きる可能性がある。

〇委員

先日、中学校の各顧問の方で一覧表を作った。例えば、何月頃に、どこ主催で、どんな大会であったかを一覧にした。それを上手く使って指導員が取捨選択しながら判断する。ただ、その判断するのが難しい。江南市の地域クラブとして参加することに迷うことがあれば学校の顧問が支える。そのようにしてやっていけるのかと思う。必要な情報は事務局に渡した。

中小体連は毎年７月だけなので、ここから先、令和９年７月までは、各競技団体主催の、例えば、軟式野球なら中日少年野球などがそれぞれのタイミングである。多分ネックになるのが、今年度の秋とか冬の大会の結果を来年度の春の大会に活用する競技団体があることである。トーナメントを組む時のシードを決める時に、前年度の秋のチームのこの成績を反映しているっていう団体もある。そ

の辺は各競技団体が判断してのことになる。先日まとめた情報の中で、どこに出るべきかを判断していくのが多分大変だろう。

〇委員長

運営主体は市である。民間のスポーツクラブが運営主体なら、そのスポーツクラブがどんどんやればいいが、市がやるからにはある程度制限していかないといけない。いろんな大会に参加したいという気持ちをずいぶん持っているとは思うが、どこまで受け入れるかは、市の考え方によると思うので、大変だとは思うが早めの対応をした方がよい。

〇委員

登録のタイミングが種目によって異なる。登録やエントリー方法など、その辺のノウハウを持っているのが学校の顧問なので、地域指導員でそういうことができるならいいが、そうでなければサポートしてスムーズにいくようにしたいと思っている。地域の指導員の方と顧問との顔つなぎは昨年度に既に終わっており、いつでも連絡がとれる状態にあると思っているが、それぞれの仕事、生活があるのでなかなか簡単に顔合わせもできないと思う。種目によって大会とか登録のタイミングがまちまちなので、困ったら連絡してもらえば、サポートしていきたい。

〇委員長

いろいろ意見が出ており、大変な宿題になるかもしれないがよろしくお願いする。

〇委員

３番の方が公式な考え方であればいいが、２番と３番は矛盾するのではないか。

〇委員長

これまでの部活動から公費で参加した、要するに中小体連の大会については、それが３番に掛かってくる。大会参加に必要な参加料などは、予算の範囲内で公費で賄う。

〇事務局

そこは参加できた者だけにはなる。

〇委員

３番の①「生徒の気持ちやチームカラーを尊重した上で決定する」とは何か。

〇事務局

中小体連だから出る、あるいは、そこまでやらなくてもいいと考える生徒もいると思う。いろんな考えの生徒がいると思うので、生徒の意見を聞きながら対応することがいいと思う。

〇委員

大会に出たいと思う生徒、無理してなくてもいいと考える生徒もいるが、子供たちの決定でやるのか。

〇事務局

今も大会に向けた動きのある種目では、大会に出場希望者に手を挙げてもらっている。

〇委員長

大会参加の考え方についてというのは、もうちょっと割り切って書いた方がいい。これまで公費を出してきたのは中小体連だけですね。

〇事務局

次ページの対外試合等の定義には各号あるが基本は中小体連となる。

〇委員長

だから考え方としては、中小体連への参加は市の公費をもって参加を認めていく。それ以外については、書きぶりは再検討する必要があるが、この３番になるのではないのか。大会参加はその限りはないけれども、その場合は生徒の気持ちを尊重した上で決定していく。

〇事務局

整理したい。

〇委員長

例えば、予算が通れば、その予算を使っていろんな大会に参加することは可能だが、今の段階ではその予算もないので、結局、中小体連の予算しかない。

〇事務局

予算書には具体手な大会名こそ載らないが、その積算上は中小体連を想定している。

〇委員長

吹奏楽も合同部活動で出るが、管内の吹奏楽の大会は、一応は文化の中では中小体連の扱いをしている。参加費などは、中小体連の方は措置できるが、それ以

外は措置できないので、参加費などは自己負担になる。参加はチームで考えるという話だが、それが青天井になっていくと大変である。市が運営主体になっているので、子どもらには活動の機会を与えなければいけないものの、体力的な問題を含めて、ある程度制限する、今回は辞めたらどうかということもあるということである。

〇事務局

補正予算の財政ヒアリングの結果は、これまで出していた対外試合派遣の補助金のお金しか出せないという結論が出た。これは先ほどの実行部会の中での話だが、秋の大会の結果が次の春の大会のトーナメントに影響する。中小体連に出るためには、前年度末にその種目の協会への登録料が必要だという話も出ていた。

〇委員長

予算でいけば、教育事務協議会にある中体連予算が毎年、３市２町の丹葉地区で負担金を出している。それは今まで中小体連の大会を支えるための費用であったが、それが今後どうなるかは大きな問題で、今まで負担していたお金を回せられれば、また違ってくるかもしれない。

〇委員

お金の話で言えば、今まで親は自分の子供のためにお金を出すことをほんどしていないので、保護者向けの想定問答は作っておいた方がいいと思う。要は中小体連の大会は公費が出るが、協会主催の大会は、今までは学校単位で、出たい人だけで工面していたのをきちんと示してあげた方がいいと思う。また、チームカラーで言うと、予めどのような方向性のチームにしたいのかを、９月の本格実施のタイミングで親に聞いた方がいい。グーグルフォームなどで問い合わせ形式にして、より競技志向の強い親子なのか、あるいはホビー的な考えを持った親子なのかもアンケートを取った上で、指導員がチームの方向性を検討していくのも一つの方法かと思うので、その点も含めてご検討されたい。

〇委員長

江南市の地域クラブは、競争力を高めるための活動ではないことは明確にしてある。そのまま走らないようにしていかないといけない。そのような方も見えるかもしれないが、この江南市の地域クラブは、そういうことを目的としたクラブではない。競争力を求めるなら、例えばサッカー協会だとか、軟式野球連盟とかに参加すればいい。そうではないことが元々主旨にある。あくまで江南市の地域クラブは健全育成のため、今までの部活動の考え方を生かしたクラブである。もちろん大会に参加しても構わないが、志向をそういう方向に向けるものではないことは明確にしないといけない。大会参加が始まると、よりそれを明確にしていかないといけない。

〇委員
予算の関係でスポンサーを募集してもいいかと思う。

〇委員
寄附も年間１００万円なら集められるかもしれないが、５００万円だと集まらない。
春夏秋冬、１つは大会に参加してほしいと思う。居場所づくりとはいえ、半年間、大会も練習試合もないのもどうかと思う。向かうところがあるから、居場所になっていく。１シーズンに２回は大会があった方が、子どもらにとって絶対いい。

〇委員
中小体連、協会、連盟といろいろあり、その大会の目的も違う。その辺も事務局で精査されたい。大会参加に関しては、指導員の方たちとコミュニケーションを取りながら、もちろん子どもらを含めてだが、ある程度、参加できるといいかと思う。

〇委員長
９月以降の大会に参加したい地域クラブで活動している生徒は、地域クラブで登録し、参加していくことでよいか。また、学校単位の活動がある場合は、地域クラブがあっても、地域クラブとしては参加できないとの認識でよいか。

〇事務局
学校には休日の部活動がないので、休日に関しては地域クラブしかない。そうなると学校での部活動はどうなるのかがはっきりしていない。

〇委員
校長として土日に職員に業務を命じないことがこの９月からスタートする。例外を設けていくのは避けていくべき。平日に部活動として活動していても、大会が土日に行われる以上、これをチームとして組んで、土日に教員の引率で大会参加することは不可能であるという捉え方をしている。江南市も少子化の影響もあり、運動に親しむ生徒数も各学校で減る。合同チームとして出るのは、将来を見据えた場合、合理的な判断だと思う。江南地域クラブとして、チーム数は活動場所が異なれば２チームでいけると思うが、そういう方向に一気に切り替えていくべきとの認識である。これまでは、それぞれの学校で部活があり、生徒も大勢いた。日々練習をして、休みの日も練習して、チームを組んで、さあ夏の大会、新人戦に向かうという形があった。それが、人数も減ってきて、合同チームに恐らくなってくる。土日の江南地域クラブでチームを組んで大会に出る。それを補う練習時間を確保するために、平日中学校で個別の練習をする。そうシフト

していくのではないかと思う。枠を超えたチームづくりを指導員にはしてほしいし、これまで平日に部活動をやってきた学校が、平日の枠の中でいかに支えるかである。大会の参加へは、江南地域クラブとしてになることをはっきりしておくことが必要である。

〇委員長

地域クラブにはない種目、例えばハンドボールがあるが、ハンドボールでチームを組んで、土日に、学校名で出ることについては、学校長が許可をすればオーケーになるのか。

〇委員

そうなる。

〇委員長

引率教員もいれば、校長の命令で出張してもらうことは可能である。ここにある種目については、地域クラブとして参加してくことになる考え方でよいことを確認しておく。

それではこの議題はこの程度にして次の議題に移る。

（３）その他

地域クラブ活動の追加種目についての検討（資料３）

〇事務局

前回、地域クラブ活動の実施に向けたアンケートの結果を報告したが、設問の中で生徒、保護者に向け、今後地域クラブ活動にあれば参加したい希望種目を聞いている。今回はその希望された運動系スポーツ、文化系種目で回答人数を報告する。この結果を参考とし、今後実現可能な種目を選定した上で、指導員の確保も含めて、各スポーツ団体及び文化団体の意見を聞き、協議を得て経て、追加で立ち上げを検討したいと考えている。

〇委員

資料１の課題項目３に「スポーツ・文化関係で活動している団体の滑動に生徒が参加しやすい機会を増やす」とあるが、何か決まっているのか。

〇事務局

一つの案として、こういうことも検討したい。文化系の種目のマルチ活動もあわせて検討したい。

〇委員

運動クラブのような大会はないが、文化的なものにも目を向けてほしい。軽スポーツでは、中学生が「楽しみん祭」に参加するが、文化的な方も考えていただきたい。私は学校のコーディネーターを務めており、この夏休みに子どもらに、芸能などを紹介した。子どもらに、日本の伝統、文化を聞いていたら、「それ何」という感じであった。その中でも一人の児童が手を挙げて「阿波踊り」と言った。それは夏休み中に阿波踊りに参加したからだと思う。触れる機会がないと、参加したいという気持ちにもならない。伝統文化は一度消えると、もう一度やろうとしても復活は難しい。

〇委員長

文化系を希望する生徒もいるが、これまでも土日の活動はあまり行われてこなかった。ただ、文化協会では、芸能に触れることができるいろんな活動がされている。中学生が文化協会の中で関心のあるところに参加できる、中学生を受け入れられる態勢づくりも一つの方向性であると思う。文化協会には、中学生が参加できるものがあれば広報をしてほしい。

〇委員

前回話題になった軽スポーツを地域クラブ活動の新種目にできないかという件だが、スポーツ推進委員会で検討することになった。また、１０月１２日は「楽しみん祭」があるが、１１月２４日の「あいち県民の日」にも、午後サブアリーナを無料開放し、軽スポーツ体験を実施する。こちらでも体験ができると思う。新種目については、指導者登録が何人になるかで決めていこうと思う。

〇委員長

是非、軽スポーツを楽しみたい中学生もいるので、そういう子どもらの受け皿的なものとして、スポーツ推進委員に活動していただけると有難い。

〇事務局

前回の校長会で、１０月１２日の「楽しみん祭」の小・中学生ボランティアの募集を依頼した。当日は、ボランティアをやりながら軽スポーツも体験できる。また、先日のスポーツ協会理事会でも、スポーツ、文化活動で体験したい生徒もいるだろうから、是非そのような場を設けてほしいとの意見があった。

〇委員長

それではこの議題はこの程度にして、６のその他に移る。

６　その他

（１）令和８年９月～３月実施の地域クラブ活動参加応募状況について

（資料４）

〇事務局

９月からの地域クラブ活動の各種目の募集状況をまとめた。応募は７月４日土曜日の午前９時から開始した。設定した応募人数に満たない種目は募集を継続している。前回、今回の募集の考え方を説明したが、募集するにあたっては、指導員のローテーションの予定、練習内容による指導員の貼り付け等の関係から、原則である月４回開催が困難な種目があったり、安全な指導をする上で参加人数に上限を設けたいとの指導員からの意見もあったことから、当初、募集人数を定めて受付を開始した。その上で安定的な活動としていくため、指導員の十分な確保を行いながら、指導員の人数とローテーションのやり繰りを鑑み、準備が整った種目から追加募集を行っていくことを考えていた。しかし、応募開始後、予想を上回る速さでバレーボール、ソフトテニス、軟式野球、バドミントン、陸上競技の５種目が定員に達した。応募できなかった生徒、保護者からは、是非参加したいとの声が多数寄せられたことから、生徒が夏休みに入る前に対処するため、急遽、ローテーションの組み換えや練習メニュー等を再考してもらうなど指導員と調整し、最大限の増加を考慮いただいた結果、１１ページの別紙の通り追加を募集し、活動場所の新設も行った。追加募集の日程は、中学校終業式の７月１７日に学校を通じて保護者に連絡文書を送付し、７月１９日午前１０時から一斉に受付を開始した。その結果は９ページの表の通りで、追加分を含めて申し込みソース申込者総数は５３１人となった。この中には吹奏楽への参加希望者８８人が含まれているので、運動系は４４３人となる。今年度のアンケートで９月からの活動に参加する予定としていた生徒は４６４人、８月までの試行実践登録者数が４７０人であることから、当初の動きとしてはほぼ予想通りの数字となった。９月からの活動の出席率や途中キャンセル等の活動状況を把握し、クラブ運営が可能であれば、更なる追加募集もしていく。今後も生徒の希望を汲み取り、満足できる活動にしていきたい。

〇委員長

バドミントンの参加は７５名と多いが、布袋中学校の一ヵ所だけで活動できるということか。

〇事務局

９月以降も、参加者を２グループに分けて、いずれも月３回ずつ活動する。

〇委員長

会場を増やす話はないのか。

〇事務局

対応する指導員の問題で難しい。

〇委員

指導員のモチベーションを上げるためにスポーツ少年団でアンケートを実施した。結果として、興味があると回答したのは資料のとおりであるが、今後もＯＢ・ＯＧにはお願いしていきたい。地域クラブ活動の指導員についてよく分からないという声もあるので、我々スポーツ少年団としてもできる限りの説明はしていく。

〇委員

地域クラブは大会に出られないのに、地域クラブに参加する意味があるかというような声が試行実践の間にはあった。９月から本格実施に変わる。いい意味で試行実践をやってもらったが、大会参加に対する認識は変わっていない。大会に出ないので地域クラブには入らないという人が、この４４３人の後ろに沢山いると思う。バドミントンクラブの運営も、誰もが参加できるように工夫されて有難い。

（２）地域クラブ活動体験会の実施状況について（資料５）

〇事務局

地域クラブの理解と参加の促進目的として、夏休み期間中に実施した体験会参加者の状況を報告する。申込人数６６人のうち、実際の参加者数は５３人であった。このうちソフトテニスとボールとサッカーは、熱中症対策の関係から時間や日程の変更を行った。今後の事業についても、暑さ指数での管理、活動中の対処方法等、生徒の安全を守って実施していくことが重要と考えている。

（３）地域クラブ活動試行実践の実施状況について（参考）

事務局から提出のあった参考資料により令和８年７月末日の実施状況が報告される。

（４）第５回推進委員会予定

令和８年９月１５日　午後３時

７　閉会

〇教育長

今日は長時間にわたり、貴重な角度からご協議をいただき、ありがとうございました。今回スポーツ少年団のアンケート結果から、情報発信の必要性についてのご示唆をいただいた。いかにすれば、子どもたち、保護者、地域の皆さん方にこの地域クラブ活動を理解していただだけるのか。その情報発信の仕方については更に工夫して進めていきたいと今日は強く感じた。

アンケート結果によると、クラブチームに入っている生徒も多くいて、やはり、練習量、その方法などを選択しているのではないかと思う。これまで地域クラブに応募しませんかと、何回もアンケートをやっているが、子どもらなりの選択基準を持っている。今回、応募した４４３人の生徒も、それなりの思いがあってのことと思うので、その思いをしっかり聞くような機会は持ち続けていきたい。

２学期から本格的に変わるので、その中で思うところも出てくる。そのような変化に柔軟に対応できるような私たちでありたい。

また、本日、協議いただいた中で、安全に関すること、緊急時の対応についてもご指摘をいただいた。子どもらの居場所は安全が第一であるので、しっかり研修を重ねていきたい。

各団体には指導員確保でご尽力をいただており、あらためてお礼を申し上げる。

〇委員長

これをもって、第４回江南市部活動の地域展開に関する推進委員会を終了する。

令和８年度　第４回江南市部活動の地域展開に関する推進委員会次第

日　時：令和８年８月２５日（火）
午後３時～
場　所：KTXアリーナ　会議室３

１．開会

２．委員長あいさつ

３．教育長あいさつ

４．議題
（１）地域クラブ活動実施に係る継続課題の検討について（案）（資料１）

（２）地域クラブ活動からの大会参加の考え方について（資料２）

（３）その他
地域クラブ活動の追加種目についての検討（資料３）

５．その他
（１）令和８年度９月～３月実施の地域クラブ活動参加応募状況について
（資料４）

（２）地域クラブ活動体験会の実施状況について（資料５）

（３）地域クラブ活動試行実践の実施状況について（参考）

（４）第５回推進委員会予定

６．閉会

地域クラブ活動実施に係る継続課題

課題項目	課題項目に係る令和８年度方針（要約） 【令和７年度の協議内容】	課題項目についての対応と検討案
１．持続可能な安定的な活動の実施について	・将来にわたってスポーツや文化芸術に親しむことができる活動を、地域全体で支えていく。 ・地域でスポーツや文化活動に携わっている方、兼職兼業の学校教諭、学校部活動指導員等が指導する。 ・中学校とは継続的な協力体制を維持するため、指導員と学校部活動顧問教諭との連携をしていく。	（対応） ・指導員募集チラシの作成と掲示、配布（市立小中学校・市役所・アリーナ内等）による啓発 ・各学校教諭への兼職兼業の協力依頼…要綱策定のうえ、校長会議にて説明 ・地域との連携・協働へ向かうため、民間企業等への協力要請に着手 ・指導員の資質向上を目的とした研修会の実施（指導に係る各種ハラスメントの知識）…年度中に複数回開催を予定
	・持続可能な協働活動の構築のため、スポーツ団体、市内企業等に地域クラブ活動への支援（ポスト内容の説明をするとともに、地域クラブ活動への協力を依頼する。 ・地域クラブ活動指導員と学校との継続的な協力体制について中学校と連携をしていく。 ・地域クラブ活動開始後については指導員と学校部活動顧問教諭による情報共有を図る。	（検討案） ・休日の地域クラブ活動において、参加者の希望に応じた柔軟な運営を実施 ・地域クラブ活動の認定制度の策定 …「生徒の居場所づくり」の拡充のため、江南市以外の運営団体及び実施主体（クラブ）の認定と該当団体・クラブへの補助金の検討 ・保護者を始め地域住民への周知と理解促進のため、入学説明会・保護者会等の機会を利用した行政・学校からの広報、ホームページ・広報紙を活用して記事の掲載を実施 ＊安定的な活動の継続において、喫緊の課題は指導員の充足である。学校部活動顧問、市内スポーツ団体・文化団体と連携して指導員確保を行う。 また、指導員謝金の近隣と合わせた金額となる増額改訂を検討する。 ＊部活動の「改革実行期間」である令和８年度から令和１３年度までに、全ての休日の部活動の地域展開の実現を目指すこととされたことに基づき、「改革実行期間（前期）」の令和１０年度末までに、新種目を含めた休日の地域クラブ化の充実を図る。さらに、「改革実行期間（後期）」の終期である令和１３年度末には、平日の部活動を含む、学校部活動の地域展開を目標とする。
２．活動場所の複数化等の実現について	・原則中学校施設を利用して、５中学校合同で拠点校での活動とするが、参加者の利便性を考慮して、活動場所のローテーションを実施する。 ・参加者多数となる種目は、活動場所の複数化及び有料スポーツ施設を活動場所とすること等を検討する。	（対応） ・休日の地域クラブ活動の本格実施において、追加募集時に活動場所を増設 ・参加生徒数に適応した、活動場所の複数設定を積極的に実施予定
	・５中学校の合同で拠点校での活動を原則としているが、種目により参加希望者が多い場合は、活動場所を複数とすることとする。 ・スポーツ団体、兼職兼業の学校教諭等の指導員登録を進め、連携して指導方法の確認を行う。 ・活動場所は原則として中学校施設としているが、各種目で計画する練習内容を鑑み、事前申請のうえスポーツ施設等の利用を可とする。 明確な理由があり、有料施設で活動する場合は、事務局で予算確保をする。	（検討案） ・同一種目において活動場所での活動内容、指導方法に格差のないよう、指導員間でのコミュニケーションを強化する。 ・学校部活動と地域クラブ活動での指導内容の確認のため、部活動顧問と指導員との交流の機会を持つ。 ＊全ての参加希望者の受入れを可能とするため、指導方法の工夫、無理のない指導員ローテーションの作成を行う。 地域クラブ活動実施種目は、学校部活動と同様に各学校での活動を可能とする体制づくりを目指す。
３．文化部を含めた新規実施種目と指導員の確保について	・令和８年度９月からスポーツ及び文化系、合わせて１１種目の地域クラブ活動を実施する。 ・新種目の設定については、継続検討する。	（対応） ・軽スポーツ種目の認知のため、市行事（楽しみん祭等）への積極的な中学生の参加を促し、種目への興味を深めるための啓発
	・事務局とスポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団等、学校の意見を聞きながら、具体的な種目と指導員の選定及び確保を進める。	（検討案） ・参考資料に記載した今年度アンケート結果を踏まえ、実施可能種目の選定と指導員の確保を進める。 ・市内スポーツ・文化団体との検討と実行部会、推進委員会での協議を行う。 ＊地域クラブ活動として設置できない種目は、現在スポーツ・文化関係で活動している団体の活動に生徒が参加できる機会を増やす。
４．地域クラブ活動としての大会参加について	・令和８年度９月からの大会は、原則地域クラブ活動で参加する。 ・中体連主催大会については、中学校等と情報共有を図る。	（対応） ・資料の内規（案）に定める、従来の中学校単位で出場実績がある大会への地域クラブ活動での出場の機会確保
	・練習の成果と活動仲間との連帯を醸成するため、諸大会には地域クラブ活動での参加機会を持つ。 ・令和８年度９月からの大会は地域クラブで参加することを原則とするが、中体連主催大会については方針が定まった後の対応とする。 ・大会参加等のための参加費・旅費等の負担については、予算措置を含めて検討をする。	（検討案） ・内規（案）に定める内容の大会出場機会の拡充を図る。 ・大会への参加機会の確保…チーム編成に伴う、参加者募集方法の検討 ・大会引率と運営への従事…参加種目の学校部活動顧問教諭との連携と協力体制の整備 ＊練習成果の確認と活動仲間との連帯感を持たせることを主旨とする大会への積極的な参加とするため、各種目の出場条件、安全な引率、大会運営等の充足のため、学校部活動顧問教諭からの情報伝達と併せて指導員登録を依頼する。
５．実施種目毎の受益者負担額の見直しについて	・令和８年度は参加料１回５００円を徴収する。令和９年度からの負担については、種目ごとに適正な参加料を算定し、見直しを検討する。 ・意欲を持った生徒の希望により公平な参加ができるよう困窮家庭（就学援助制度該当世帯）への支援として、令和８年度９月から参加料のみを免除とする。 ・スポーツ安全保険は令和８年度は公費負担とするが、次年度以降の負担については検討をする。	（対応） ・生徒の参加機会の平等を図るため、経済的困窮家庭への支援を９月から実施…就学援助該当世帯の参加料のみを免除 ・令和８年度のスポーツ安全保険料の公費負担を継続
	・令和８年度は参加料１回５００円を徴収し、スポーツ保険料は公費負担としているが、種目ごとに必要経費を積算し適正な参加費用を算定する。他の自治体の例についても研究したうえで、負担の範囲を決定していく。 ・困窮家庭への支援は必要であるため、対象を就学援助制度該当世帯とし、参加料のみ免除とする。保護者には参加募集時に支援内容の周知と対象世帯の確認についての周知を行う。	（検討案） ・受益者負担について保護者に理解を求めていくとともに、新年度予算積算において各種目の運営に係る必要経費を算出し、参加料の保護者負担額を定める。 ・近隣市町の考え方も参考として、保険料を含め事業に係る公費負担の範囲を検討する。 ＊種目毎の参加料とスポーツ安全保険料の保護者負担の理解を得る。 事業の歳入と安定した参加者数の確保を鑑み、新たに登録料（年会費）等の徴収等を検討する。 *今後、認定制度の進行により、認定クラブでの参加料免除の方法を検討する。

参　照

部活動の地域展開状況（令和８年度９月時点）

	江南市	一宮市	犬山市	小牧市	岩倉市	北名古屋市	扶桑町
地域展開の状況 種目数（運動部） （文化部）	休日の部活動 10 1（吹奏楽）	休日の部活動 15 5	休日の部活動 認定地域クラブ（予定を含め）２１ 休日合同バンド（学校部活動）　２	検討中 ※以下の内容もすべて検討中です	休日の部活動 1 0	土日の部活動 7…10団体 1…2団体（吹奏楽）	休日の部活動 14 3(吹奏楽・茶華道・テーブルゲーム)
地域展開の形態 運営主体 実施主体	 市 市	 実施団体 実施団体	スポーツ協会やスポーツ少年団、部活動指導員、保護者、兼職兼業の教職員、一般社団法人等様々な立場、団体の方が運営・実施主体となって地域展開	検討中	 市 岩倉スポーツクラブ	 各地域クラブ 各地域クラブ	 総合型地域スポーツクラブ 各種目
独自の認定制度の策定状況	令和8年度要綱策定予定	令和8年度要綱策定予定	令和８年４月１日に「犬山市地域クラブ認定要綱」を策定	R8年度中に要綱策定予定	令和8年度要綱策定予定	令和8年度要綱策定予定	総合型地域スポーツクラブと連携しているため策定予定なし
活動場所	全中学校合同で拠点校形式	市内中・小学校、公共施設 等	４中学校の運動場・体育館・教室等を活用	市４地区に分けて拠点校形式 （変更の場合あり）	小学校他（現時点）	中学校の運動場、体育館、武道場、 音楽室、教室	２中学校のグラウンド・体育館・小学校の一室 総合体育館・公民館・学習等供用施設
指導員数（回答日現在） 地域（民間） 教員（兼職兼業） 指導員謝金額 指導員研修の実施内容	 74 7 1,600円／時間を基準 年複数回実施 危機管理、各種ハラスメントの予防等	 200 100 1,600円／時間を基準に、 各実施団体で設定 年複数回実施 熱中症対応、心肺蘇生法、ハラスメント、指導法等	地域展開中のクラブもあり、把握できていない 市から謝金はなしで各クラブで自走 ボランティアに近いクラブもあれば、2,000円／時のクラブもある 指導者の多くが、部活動指導員や兼職兼業の教職員のため現在まで指導員の研修は未実施。今後実施していく予定。	市民間指導員派遣制度における人数 運動部107人、文化部12人 不明 2,000円／回 検討中	 1 5 1,900円/１ｈ or 3,000円/２ｈ 年複数回実施 危機管理、各種ハラスメントの予防、子ども性暴力防止法等	 40 3 各地域クラブごとに異なる 100円～5,000円/回 令和９年度より実施予定 内容は検討中	 60 16 1,600円／時間を基準 年３回実施 危機管理、各種ハラスメントの予防等、生徒や保護者とのかかわり方など
参加生徒の募集方法	定員制 申し込み順（先着） 定員に達し次第、締め切る	定員は各実施団体で設定 市ポータルサイトにて申込	各クラブで対応 説明会（保護者・生徒）の後、募集 令和８年４月以前に立ち上げたクラブは、クラブ毎に見学会や体験会を実施	検討中	定員制 申し込み順（先着） 定員に達し次第、締め切る	申し込み順（先着） 応募チラシを見て生徒が直接地域 クラブに申し込む	小中学校へtetoruを使って案内 年会費とチケット制のため特に定員は決めていない
大会参加 費用負担	地域クラブとして参加 従来の学校部活動で出場した大会に要する経費は公費負担の範囲とする	地域クラブとして参加 参加費、市補助金から支出	認定地域クラブとして参加 県大会より１人1,000円 種目ごとの協会の大会は協会登録費・大会参加費は認定地域クラブが負担（生徒の会費等より）	検討中	地域クラブとして参加 自己負担	基本的に中学校単位で参加 令和8年度は剣道、柔道が地域クラブとして参加 公費負担＋生徒負担（登録費）	基本的に地域クラブ活動で参加だが、場合によっては中学校区で出場する形も想定 調整中
受益者負担額 参加料 スポーツ保険加入	 500円／回 公費負担	500円／回を基準に、各実施団体で設定 受益者負担	月2,000円から月6,000円程度、１回1,250円等、クラブ毎に設定 全員加入で、スポーツ保険代として集めているクラブもあれば、月会費等から払っているクラブもある 公費負担はなし 各クラブに自走を求めている	検討中	1,200円/年 受益者負担	各地域クラブごとに異なる 300円～3,000円/月 受益者負担	年会費4,000円　500円／１回 受益者負担
生活困窮家庭への支援	就学援助認定世帯を対象とし参加料のみを免除	就学援助認定世帯を対象とし参加料の一部を定額負担	市として生活困窮家庭への支援は行っていない	検討中	なし	令和９年度より実施予定	検討中
独自の補助制度	なし	なし	なし	検討中	なし	なし	なし

資料２

地域クラブ活動からの大会参加の考え方について

１　学校部活動からの参加

・江南市児童・生徒の対外試合等派遣による補助金交付要綱により各学校に事業費を交付

・補助対象の大会については、同要綱及びその事務取扱で定義

２　地域クラブ活動からの大会参加の考え方について

①　これまで学校部活動において公費で参加してきた大会については、指導員と協議の上参加する。

②　これまで補助対象外であったものの、各学校ごとに工面した資金（PTA 協力、資源回収収益など）で参加してきた大会については、参加する大会を指導員と選定、協議の上、参加を検討する。
大会が少なくなる秋以降の大会を想定する。（新人戦など）

③　当分の間、大会参加に必要な参加料、登録料等及び旅費相当額は、予算の範囲内で公費で賄う。ただし、大会現場までの引率（往復）が保護者等による場合は、旅費相当額は支給しない。

３　参加大会の選定等

①参加大会の選定については、過去の参加実績にとらわれ過ぎることなく、活動生徒の気持ちやチームカラーを尊重した上で決定する。

②大会要項が規定する引率者（指導員）が、実際に確保できることが参加の前提になる。

江南市地域クラブ活動参加生徒の対外試合等派遣に係る事務取扱（案）

（目的）

第１条　この事務取扱は、江南市が運営する地域クラブ活動に所属する生徒（以下「生徒」という。）が、対外試合等に出場する際の参加料等（主催者に支払う登録料等の諸費を含む。）の負担及び旅費の支給に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この事務取扱における対外試合等とは、次の各号に掲げるものをいう。

（１）公益財団法人日本中学校体育連盟、東海中学校体育連盟、愛知県中小学校体育連盟、西尾張中小学校体育連盟又は愛知県中小学校体育連盟尾北支所が主催する大会

（２）一般社団法人全日本吹奏楽連盟、中部日本吹奏楽連盟、東海吹奏楽連盟、愛知県吹奏楽連盟又は愛知県小中学校吹奏楽連盟西尾張支部が主催するコンクール若しくはコンテスト

（３）県大会以上（予選又は選考があり、大会要項等が定められているものに限る。）の大会で、教育関係機関が主催、共催又は後援しているもの

（４）前３号に掲げるもののほか市長が必要と認めた大会

（参加料等及び旅費）

第３条　前条各号の対外試合等の参加に係る参加料等及び旅費に相当する額は、江南市の一般会計予算から支出する。

２　前条各号の対外試合等に参加する生徒の人数は、主催者の定める大会要項等に定めのあるときはその人数を上限とし、定めのないときは市長が必要と認める人数とする。

３　旅費に相当する額については、江南市職員等の旅費に関する条例（令和７年条例第２８号）を準用して計算する。

４　参加料等については、~~県大会以上の大会を対象とし、~~主催者が大会要項等に定めた額とする。

（その他）

第４条　この事務取扱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附　則

この事務取扱は、令和８年〇月〇日から施行する。

資料３

休日の地域クラブ活動の実施に向けたアンケート

今後の追加希望種目について（参考）

【生　徒】

＊複数種目回答者も各種目へ含める

運動系種目	人数	軽スポーツ種目	人数	文化系種目	人数
水泳	21	モルック	16	吹奏楽	48
ハンドボール	11	ダンス	14	美術・イラスト	10
硬式野球	9	ボッチャ	5	ｅスポーツ	5
弓道	8	アルティメット（フリスビー）	2	茶華道	4
硬式テニス	6	サバイバルゲーム	1	かるた（百人一首）	3
ドッヂボール	5	ピックルボール	1	家庭科（料理）	3
体操・新体操	4	K-pop ダンス	1	将棋	2
柔道	3			軽音部	2
空手	3			文芸	2
ラグビー	3			読書クラブ	2
自転車競技	2			書道	2
ボウリング	2			パソコン	2
パルクール	2			和太鼓	1
女子野球	1			演劇	1
ホッケー	1			アート・クラフト	1
走り幅跳び	1			写真	1
少林寺拳法	1			カラオケ	1
アーチェリー	1			合唱	1
ボルダリング	1			動画制作	1

【保護者】

＊複数種目回答者も各種目へ含める

運動系種目	人数	軽スポーツ種目	人数	文化系種目	人数
水泳	33	ダンス	21	吹奏楽	13
ハンドボール	13	モルック	7	パソコン	11
体操・新体操	7	ボッチャ	4	プログラミング	8
弓道	6	ピックルボール	3	茶華道	7
硬式テニス	5	チアダンス	1	軽音部	5
ドッチボール	5			将棋	5
空手	4			合唱	3
パルクール	2			書道	2
自転車競技	1			家庭科（料理）	2
ゴルフ	1			ボランティア	2
スケートボード	1			英会話	2
				化学	2
				演劇	1
				写真	1
				動画制作	1
				手芸	1
				手話	1

資料４

令和８年度９月～３月　江南市地域クラブ活動　参加者数

＊令和８年７月３１日時点

種目	活動場所	募集人数	追加募集人数	募集総数	申込人数	申込者内訳	
						男子	女子
バスケットボール男子	北部中学校	40	—	40	20	20	—
バスケットボール女子	西部中学校	30	—	30	22	—	22
ソフトテニス　A	西部中学校	30	30	60	44	26	18
ソフトテニス　B	北部中学校	30	15	45	42	28	14
ソフトボール	布袋中学校	30	—	30	11	1	10
バドミントン	布袋中学校	70	5	75	75	20	55
バレーボール	布袋中学校	30	—	30	30	9	21
バレーボール	宮田中学校	0	30	30	30	12	18
軟式野球	古知野中学校	30	30	60	38	38	—
剣道	西部中学校	30	—	30	13	5	8
卓球　男子	古知野中学校	30	—	30	30	30	—
卓球　女子	古知野中学校	30	—	30	23	—	23
陸上競技	宮田中学校	30	30	60	42	27	15
サッカー	布袋中学校	25	—	25	23	21	2
吹奏楽	宮田中学校	—	—	—	58	11	47
吹奏楽	布袋中学校	—	—	—	30	7	23
合計		435	140	575	531	255	276

別　紙

地域クラブ活動追加募集について

◎追加募集種目・追加募集数及び活動場所の新設

種目	当初定員数	追加募集数	合計定員数	活動場所新設
ソフトテニスA	３０	３０	６０	なし
ソフトテニスB	３０	１５	４５	なし
バドミントン	７０	５	７５	なし
バレーボール	３０	３０ （新設場所分）	６０	宮田中学校 体育館
軟式野球	３０	３０	６０	なし
陸上競技	３０	３０	６０	なし

＊活動日・時間は変更いたしません。

◎追加募集実施日程

・保護者向け周知文書送信　　令和８年７月１７日（金）
＊学校から文書送信

・追加募集種目応募開始日時　　令和８年７月１９日（日）
午前１０時から

資料５

地域クラブ活動体験会実施種目・参加人数

種目	実施場所	７月実施日時	申込人数 (参加人数)	８月実施日時	申込人数 (参加人数)
軟式野球Ａ	古知野中 グラウンド	１９日（日） 9時から12時	1 （1）	—	—
男子バスケット ボール	北部中 体育館	１９日（日） 9時から12時	6 （6）	２日（日） 9時から12時	2 （2）
女子バスケット ボール	西部中 体育館	１９日（日） 9時から12時	6 （6）	—	—
サッカー	布袋中 グラウンド	１９日（日） 13時から16時	6 （5）	２日（日） 8時から10時	2 （1）
ソフトテニスＡ	北部中 グラウンド	１９日（日） 9時から12時	6 （6）	２日（日） 8時から11時	5 （0）
ソフトテニスＢ	西部中 グラウンド	１９日（日） 9時から12時	4 （4）	２日（日） 8時から11時	1 （1）
剣道	西部中 体育館	１９日（日） 13時から16時	1 （1）	—	—
陸上競技 (長・短距離)	宮田中 グラウンド	１９日（日） 8時から11時	5 （3）	—	—
ソフトボール	布袋中 グラウンド	２５日（土） 8時30分から 11時30分	中止	８日（土） 8時30分から 11時30分	5 （1）
バレーボール	布袋中 体育館	２５日（土） 9時から12時	8 （8）	１日（土） 9時から12時	8 （8）
合　　計			４３ （４０）		２３ （１３）

＊7月25日ソフトボールの活動は熱中症対策のため8月8日へ変更

＊8月2日サッカーの活動は熱中症対策のため午前へ変更

8月2日ソフトテニスの活動は8時から11時へ変更

参考

令和８年度　江南市地域クラブ活動試行実践　実施状況（令和８年７月末日現在）

試行実践活動場所（４月～８月）・参加生徒人数

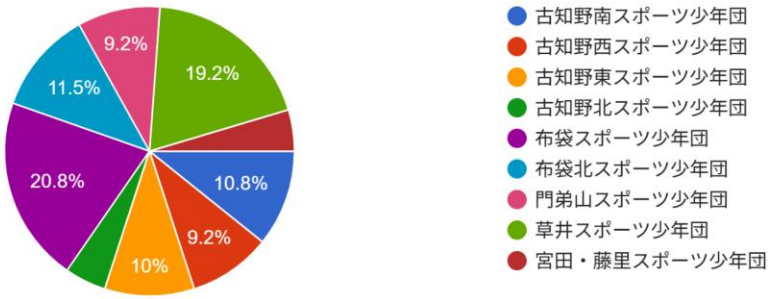
種目	活動日	活動場所	活動時間	参加生徒数	(内数)男子	(内数)女子	(内数)途中退部	R7参加生徒数	指導員数	(内数)兼職兼業	指導員補助	R7指導員数
バスケットボール（女子）	第1・第3日曜日	西部中学校体育館	9：00～12：00	22	0	22	0	21	10	2	0	10
バスケットボール（男子）	第1・第3日曜日	北部中学校体育館	9：00～12：00	17	17	0	1	実施なし	4	0	0	実施なし
ソフトテニス　Aチーム	第1・第3日曜日	北部中学校テニスコート	9：00～12：00	39	22	17	1	20	9	1	0	10
ソフトテニス　Bチーム	第1・第3日曜日	西部中学校テニスコート	9：00～12：00	50	24	26	0	33				
ソフトボール	第2・第4土曜日	布袋中学校グラウンド	8：30～11：30	15	0	15	0	14	6	1	0	5
バドミントン	第1・第3日曜日	布袋中学校体育館	13：00～16：00	66	17	49	0	27	13	0	0	7
バレーボール	第1・第3日曜日	布袋中学校体育館	9：00～12：00	63	29	34	0	50	5	0	0	5
剣道	第1・第3日曜日	西部中学校体育館	13：00～16：00	17	5	12	0	18	5	0	0	5
軟式野球　Aチーム	第1・第3日曜日	古知野中学校グラウンド	9：00～12：00	44	44	0	0	44	13	1	0	13
軟式野球　Bチーム	第2・第4日曜日	北部中学校グラウンド	9：00～12：00	24	24	0	0	34				
ランニング	第1・第3日曜日	宮田中学校グラウンド	8：00～11：00	32	18	14	0	33	5	2	0	4
卓球	第1・第3日曜日	宮田中学校体育館	9：00～12：00	64	33	31	1	31	9	0	1	7
サッカー	第1・第3日曜日	布袋中学校グラウンド	13：00～16：00	17	17	0	1	実施なし	1	0	0	実施なし
			合計	470	250	220	4	325	80	7	1	66

中学校別参加生徒数

	古知野	布袋	宮田	北部	西部	市外(津島)	合計
バスケットボール（女子）	8	6	5	3	0		22
バスケットボール（男子）	8	3	3	2	1		17
ソフトテニス　Aチーム	22	0	6	11	0		39
ソフトテニス　Bチーム	4	15	7	0	23	1	50
ソフトボール	12	2	0	1	0		15
バドミントン	19	30	5	6	6		66
バレーボール	17	20	4	16	6		63
剣道	5	9	1	0	2		17
軟式野球　Aチーム	24	13	3	2	2		44
軟式野球　Bチーム	16	3	0	5	0		24
ランニング	14	8	9	1	0		32
卓球	37	3	14	4	6		64
サッカー	2	2	4	7	2		17
合計	188	114	61	58	48	1	470
全生徒数（R8・5・1）	865	584	325	434	259		2,467

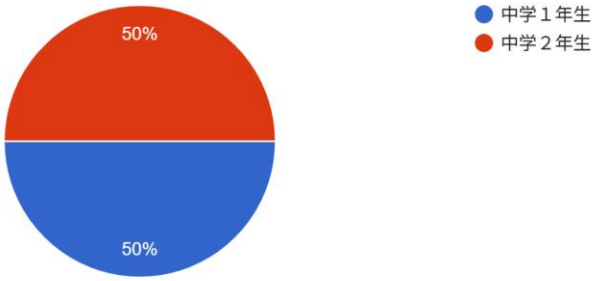
スポ少OB・OGの部活動地域展開についての動向リサーチ

所属されていた単位団を選択してください
130 件の回答



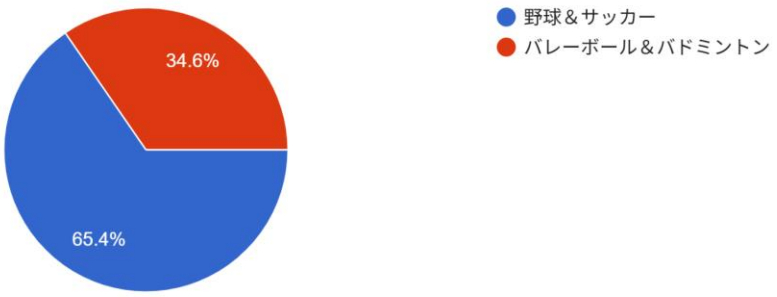
・古知野南　14名　・布袋　27名
・古知野西　12名　・布袋北　15名
・古知野東　13名　・門弟山　12名
・古知野北　6名　・草井　25名
・宮田・藤里　6名

現在の学年を選択してください
130 件の回答

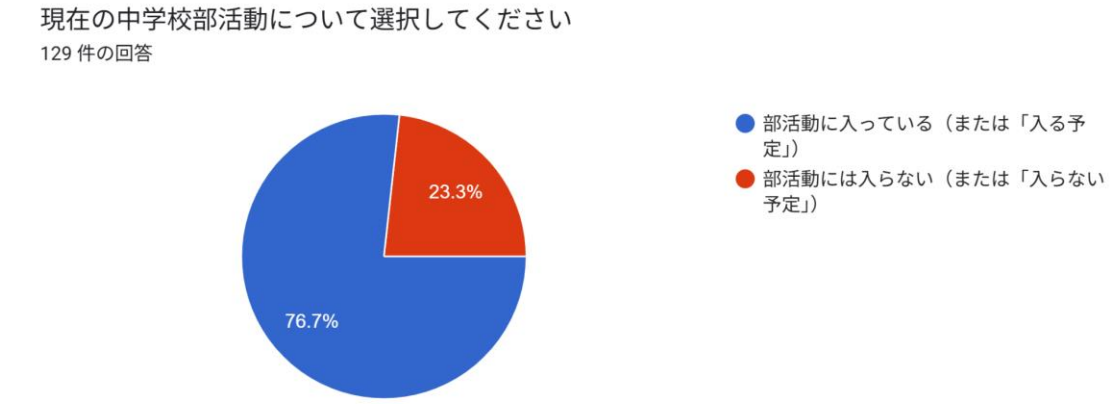


・中学1年生　65名　／　・中学2年生　65名

スポ少在団中の種目を選択してください
130 件の回答

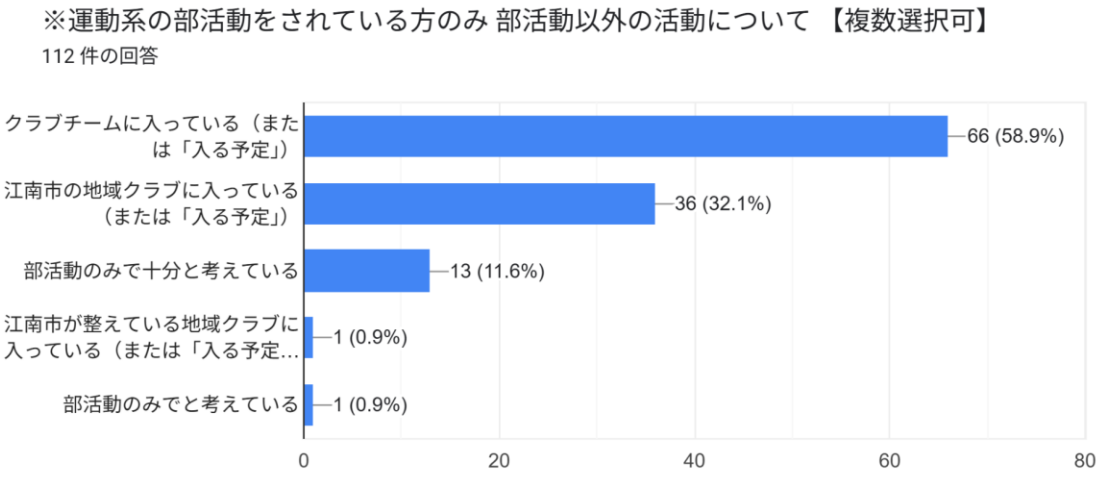


・野球＆サッカー　85名　／　・バレー＆バドミントン　45名



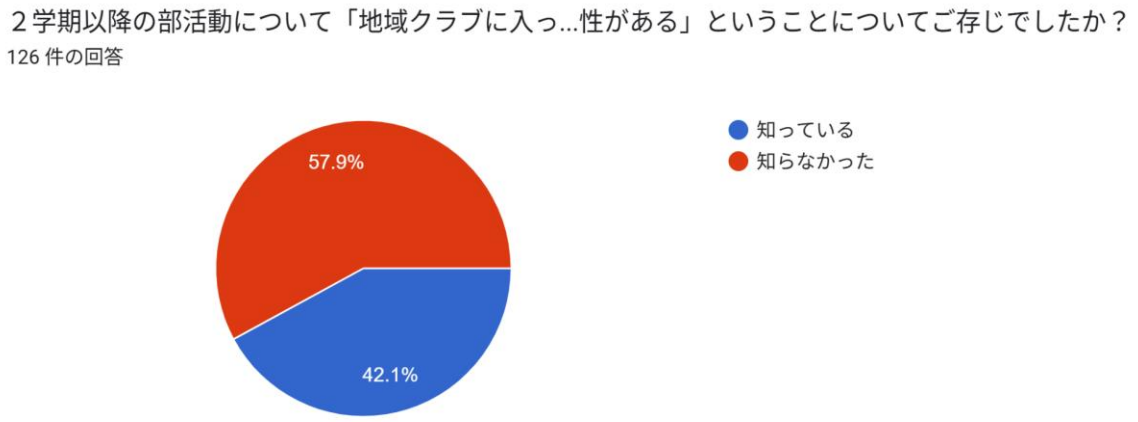
・部活動に入っている　99名　　／　　・部活動に入っていない　30名

部活動に入っていないという方が30名いますが、多くの子は民間クラブチームに入っているため学校部活動に入っていないという方でしたので、運動から離れたという子はごく一部に限られています



※途中で回答フォームの選択肢の内容を一部修正した関係で「江南市の地域クラブに入っている（または入る予定）」と「江南市が整えている地域クラブに入っている（または入る予定）」などは同じ種類の回答となります

・クラブチームに入っている（または入る予定）　66名
・江南市の地域クラブに入っている（または入る予定）　37名
・部活動のみで十分　14名



・　知らなかった　73名　　／　　・知っている　53名

課題
ほとんどの種目において、平日の学校部活動に参加していても、地域クラブに所属していないと中小体連の大会には出場できないということの周知、理解が進んでいない。
これは学校現場の当事者意識が薄いことが原因の一つに挙げられると考えています。学校サイドへの提案と要望を続けていきます。

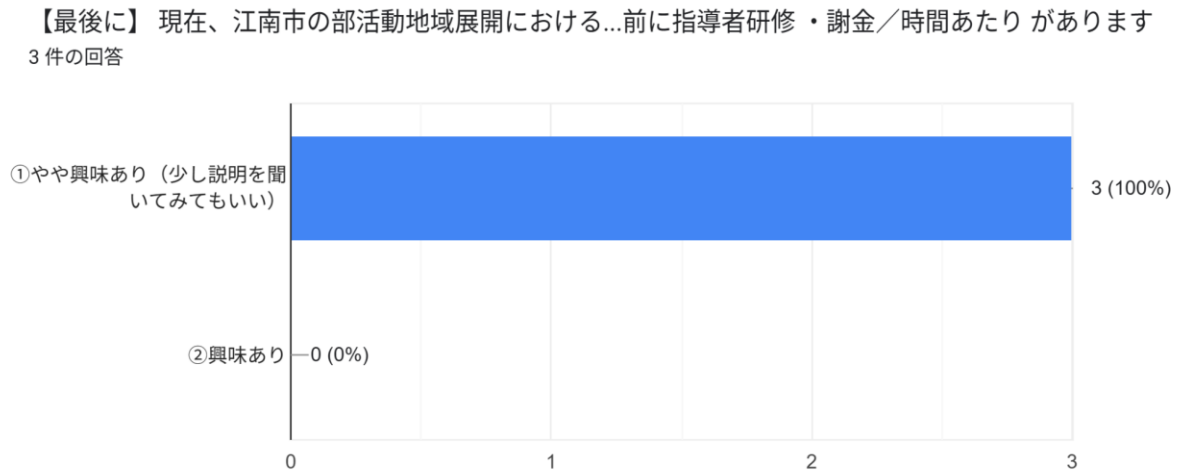
【最後に】

現在、江南市の部活動地域展開における「地域クラブ」では、各種目の指導者不足による以下の問題が起こることが予想されています。

①希望者全員が希望の種目クラブに入ることができない
②活動拠点が他の中学校となるため参加したくても移動手段が限られ参加しにくい（これは既に起きています）

せっかくスポ少で育まれた子どもたちが「スポーツがやりたくてもできない」を防ぎ、全ての子どもたちの「心身の健全な成長と居場所を守る」ために、スポ少としても全ての種目に対して指導者体制の構築に協力できるところがあれば協力していきたいと考えています。
(市としては参加者に加え指導者の人数が確保されれば活動拠点を増やしていきたいとも考えているようです)
もし、卒団生母集団の方の中に「指導者として活動してもよい」というお考えをお持ちの方がおみえでしたら、その旨をお知らせいただけますようお願い申し上げます。（種目には吹奏楽（ジュニアバンドもあります）

※地域クラブ指導者の方には
・事前に指導者研修　　・謝金／時間あたり　　があります



【その他ご意見】

お寄せいただいたご意見、要望に対して江南市スポーツ少年団本部として「。江南市部活動地域展開推進委員会」に携わっていることから、国や市それぞれの観点に基づいて回答をさせていただきました。
皆さまからのご意見やご要望は引き続き市の方へ求めていきます

① 現在は部活、地域クラブに所属していますが、9月以降は地域クラブには入らない予定です。

地域クラブへの参加は任意です。それぞれのご家庭やお子さんの状況に応じて選択していただけます。今後も活動内容や参加方法について情報提供を行い、参加しやすい環境づくりに努めていただくよう要望していきます。

---

② 運動習慣がない子供達が部活動や地域クラブの参加が自由になることで、運動部に入ろうとするでしょうか？

地域クラブは競技力向上だけでなく、スポーツに親しみ、様々な活動を体験できる場として整備しています。運動経験の有無にかかわらず参加しやすい環境づくりに努め、多くの子どもたちが運動を始めるきっかけとなることを目指しています。

---

③ 送迎が必要になると親の負担が大きい。

送迎に関するご負担については、多くのご家庭からご意見をいただいております。活動場所は現在複数校合同ですが、今後、参加者や指導者の確保状況に応じて活動拠点を増やし、より参加しやすい環境づくりを進めていきたいと確認しています。

---

④ 平日の練習だけでは試合で勝つレベルまで上達できない。

地域クラブは、生涯スポーツの推進やスポーツに親しむ機会の確保を目的としています。一方で、大会での活躍を目指す子どもたちにも可能な限り活動機会を確保できるよう、今後も活動内容の充実を提案してまいります。

---

⑤ 部活動だからこそ育つ力があると思う。

学校部活動で培われてきた協調性や責任感、人間関係づくりの大切さは、市としても十分認識しています。地域クラブにおいても、仲間と協力しながら活動できる環境づくりを大切にしていってもらえるよう要望していきます。

---

⑥ サッカーは人数が少なく試合に出られないのでは。

大会参加人数については競技ごとに状況が異なります。必要に応じて合同チームなども含め、できる限り参加機会が確保できるよう関係団体と調整を進めています。また、サッカーについて2学期からはチーム編成が可能な人数が集まりそうであるとも聞いています。

---

⑦ 地域移行の野球チームも試合に出られないと聞いている。

今後、中小体連大会への参加は原則として地域クラブ所属者となります。競技ごとの大会参加方法については現在も調整が進められており、決定次第、対象者へお知らせされていきます。

---

⑧ 費用や送迎で参加できない子が出る。

経済的負担や送迎負担については重要な課題と認識しています。生活困窮世帯の方には免除制度がありますので事務局にご相談ください。

---

⑨ 他校開催では気軽に参加しにくい。

現時点では複数校合同で実施していますが、将来的には活動拠点を増やし、より身近な場所で活動できる体制づくりを目指しています。

---

⑩ 中学校の部活動が中途半端。

令和8年度2学期以降、平日の学校部活動については（学校ごとで対応が異なりますが）当面継続する予定ですが、休日は地域クラブへ移行します。段階的な移行となるため、ご理解をお願いいたします。

---

⑪ 地域クラブの活動日数が分からない。

現在の予定では、今後の休日の活動は原則月4回、1回3時間程度の活動を予定しています。市ホームページにも公開されていますが、詳細は各競技・種目ごとにご案内されます。
一部、種目によっては指導者確保の状況に応じて例外もあるようです。

---

⑫ 上位大会を目指すには活動日数が少ない。

地域クラブは生涯スポーツを目的としていますが、大会への参加も視野に活動します。活動内容については、今後の運営状況を踏まえながら充実が図られるよう要望をしてまいります。

---

⑬ 陸上長距離は継続的な練習が必要。

競技特性については認識しています。活動機会の充実については、競技団体とも連携しながら今後の運営の参考とさせていただきます。

---

⑭ 学校で仲間と活動する機会が減る。

学校での仲間づくりは大切な教育的価値であると考えています。一方で地域クラブでも学校を越えた交流を通じ、多様な人との関わりを育める機会ともなるよう提言を続けていきます。

---

⑮ 参加費がかかる・部活ほど真剣になれない・送迎・指導者不足など。

いただいたご意見は今後の地域クラブ運営における重要な課題と認識しています。参加費、活動場所、指導者確保、活動内容の充実などについて改善を進め、より魅力ある地域クラブをサポートを検討していきます。

---

⑯ 他市町村との進み方に差があり不公平。

部活動改革は各自治体が地域の実情に応じて進めています。江南市としても子どもたちにとってより良い環境となるよう、引き続き制度改善に取り組みます。

---

⑰ 地域クラブ月2回では学べない。

令和8年2学期以降は、休日の地域クラブは原則月4回の活動を予定しています。活動内容についても一層の充実が図られていくと思われます。

---

⑱ 運動する機会が減る。

運動機会の確保は重要な課題です。学校部活動、地域クラブ、その他のスポーツ活動など、多様な活動機会を提供できるよう努めます。

---

⑲ ２学期からの地域クラブ参加の案内や締切が急だった。

ご不便をお掛けし申し訳ありません。今後はより早い情報提供と丁寧な周知が図られるよう努めます。

---

⑳ 地域クラブをもっと整えてから部活をなくしてほしかった。

移行期間中であること、また各学校においての方針が異なることなどからご不安をお掛けしております。いただいたご意見を踏まえ、体制整備を進めながら、より良い環境づくりが図られるよう要望をしていきます。

㉑ 部活動でしか学べないことがある。

部活動の教育的意義は十分認識しています。地域クラブでも協調性や責任感などを育める活動となるよう要望をしていきます。

㉒ 部活動の方が選択肢が広がる。

地域クラブは従来の部活動に代わる新たな選択肢として整備が進められています。今後も活動種目や内容の充実が進められ、多くの子どもたちにとって新しい選択肢が生まれていくことが予想されます。

㉓ 地域クラブは部活動同等の内容にしてほしい。

地域クラブは部活動とは目的や運営方法が異なりますが、ご期待に応えられるよう活動内容の充実を要望していきます。

㉔ 野球部がなく選択肢が減った。

ご意見として受け止めます。競技機会の確保については、近隣校との連携なども含め検討してまいります。

㉕ 部活動が減ってかわいそう。

回答
子どもたちが充実した学校生活を送れるよう、地域クラブを含めた活動環境の充実に努めます。

㉖ 中学校で部活動ができるのが理想。

教員の働き方改革との両立を図りながら、子どもたちにとってより良い活動環境となるよう取り組んでまいります。

㉗ 情報が分かりにくい。

説明不足によりご不安をお掛けしております。今後は説明会や資料等を通じ、分かりやすい情報提供が図られるよう要望していきます。

㉘ 体制が整っていない。

移行期であるため課題もありますが、いただいたご意見を参考に改善を進め、より充実した体制整備に努めます。

㉙ 練習しても大会で結果が出ない。

地域クラブでも大会参加を予定しています。競技力向上とスポーツを楽しむことの両立を目指して運営してまいります。

㉚ 放課後の活動を学校で続けてほしい。

平日の学校部活動は当面継続される予定です。今後も子どもたちの放課後の居場所づくりについて検討を続けます。

㉛ 地域クラブは大会にも出られず意味がない。

今後は地域クラブ所属者が中小体連大会へ参加することを基本としています。競技ごとの詳細は決まり次第お知らせします。（1学期までの試行実践期間は学校単位で大会出場していたため地域クラブでの参加はありませんでしたが、一部種目を除いて今後は地域クラブに所属していることが大会出場への資格となっていきます）

㉜ 毎日自由時間ばかりで心配。

放課後の居場所づくりや運動機会の確保は重要な課題と認識しています。学校や地域と連携しながら充実を図ります。

㉝ 活動機会をもっと増やしてほしい。

活動回数や内容については、参加者や指導者の状況を踏まえながら充実を検討してまいります。

㉞ 指導者には報酬を支払うべき。

持続可能な地域クラブ運営には指導者確保が重要であると認識しています。現在、国のガイドラインに基づき謝金を払っております。

㉟ アンケート内容が分かりにくい。

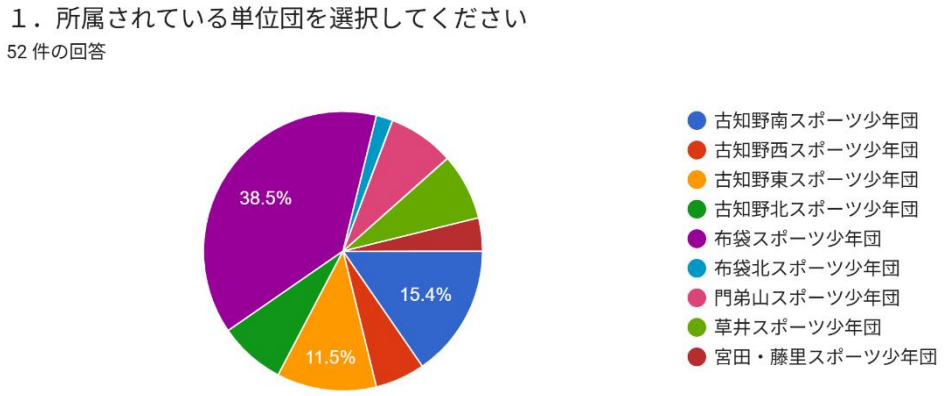
貴重なご意見ありがとうございます。今後のアンケート作成の参考とし、分かりやすい内容となるよう改善いたします。

㊱ 中体連は学校単位で出場できるようにしてほしい。

令和8年度2学期以降は、休日部活動を地域クラブへ移行することを前提としているため、中小体連大会への参加は原則として地域クラブ所属者となります。ただし、競技によっては例外もあるため、詳細は競技団体の運用に基づきご案内いたします。

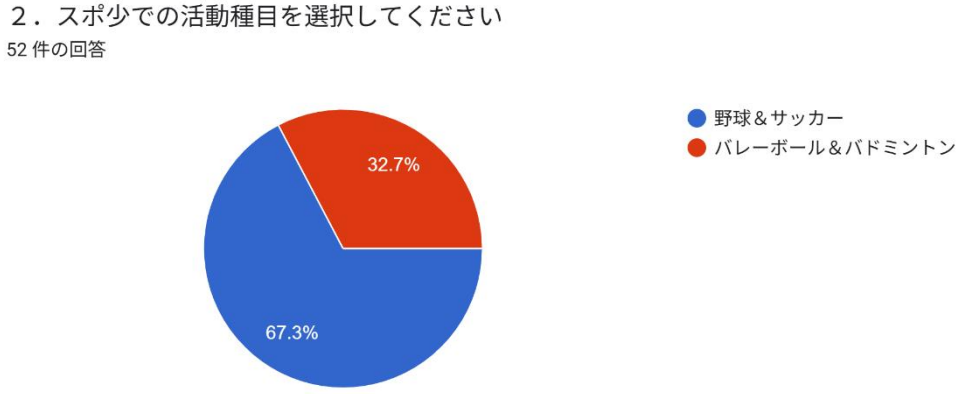
スポ少在団生【6 年生】へ中学校部活動への動向調査

1．所属されている単位団を選択してください（52 件の回答）



・古知野南スポーツ少年団　８名　　・古知野西スポーツ少年団　３名
・古知野東スポーツ少年団　６名　　・古知野北スポーツ少年団　４名
・布袋スポーツ少年団　２０名　　・布袋北スポーツ少年団　１名
・門弟山スポーツ少年団　４名　　・草井スポーツ少年団　４名
・宮田、藤里スポーツ少年団　２名

2．スポ少での活動種目を選択してください（52 件の回答）

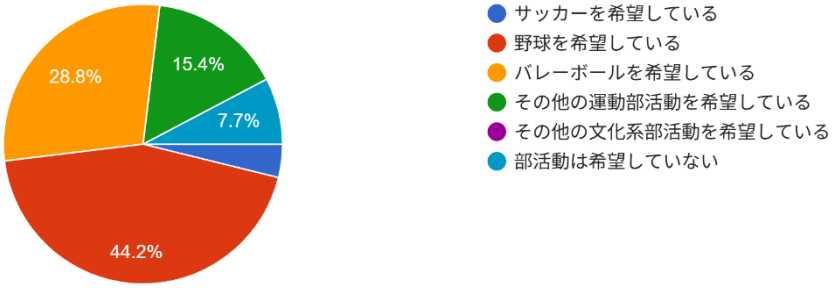


・野球＆サッカー　３５名　　・バレーボール＆バドミントン　１７名

3．平日の中学校部活動について、現時点の希望に最も近いものを１つ選んでください。

通う中学校によっては、希望する部活動がない場合や、部活動の募集をしていない場合があります。ここでは、学校の実施状況にかかわらず、今の気持ちに近いものをお答えください。（52 件の回答）

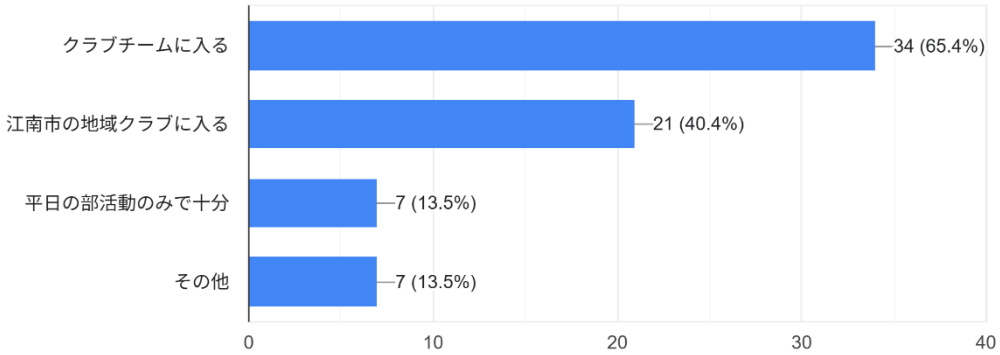
３．平日の中学校部活動について、現時点の希望に...らず、今の気持ちに近いものをお答えください。
52 件の回答



・サッカー	２名	・野球	２３名
・バレーボール	１５名	・その他の運動部活動	８名
・その他の文化系部活動	４名	・部活動は希望していない	４名

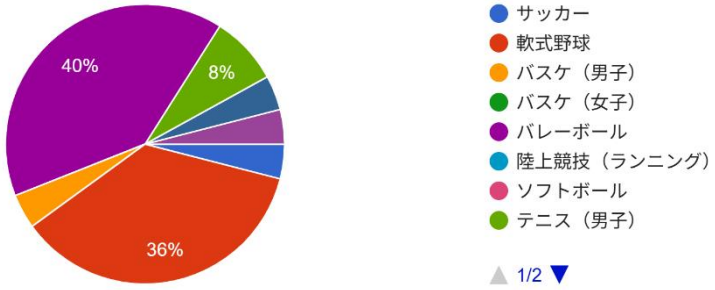
４．休日の活動予定について選択してください（※複数選択可：52 件の回答）

【全員】 ４．休日の活動予定について選択してください ※複数選択可
52 件の回答



５．質問５で※地域クラブに入る予定」の方のみ競技種目を選択してください（25 件の回答）

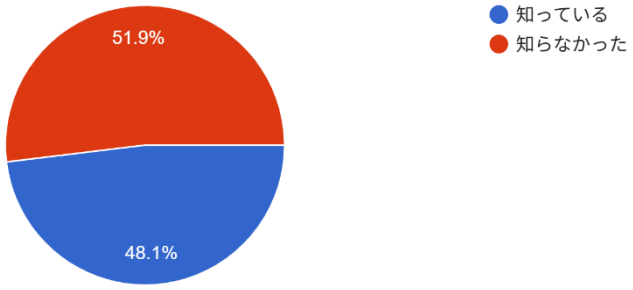
５．質問５で※地域クラブに入る予定」の方のみ 競技種目を選択してください
25 件の回答



・サッカー軟式野球バスケ（男子）　９名　　・バスケ（女子）　１名
・バレーボール　１０名　　・陸上競技（ランニング）　なし
・ソフトボールテニス（男子）　２名　　・テニス（女子）　なし
・卓球　１名　　・バドミントン　１名
・ジュニアバンド　なし

６．今年度２学期以降の中学校部活動について
「江南市地域クラブに入っていないと今後、中小体連主催の大会に出らない可能性がある」ということについてご存じでしたか？　（52 件の回答）

６．今年度２学期以降の中学校部活動について「...性がある」ということについてご存じでしたか？
52 件の回答



・知っている　２５名　　・知らなかった　２７名

７．中学校部活動、及び地域クラブ運営についてご意見などございましたらご自由にご記入ください　（26 件の回答）

１．地域クラブは、自分で活動場所に行けないので送迎が大変。
２．現段階では江南市内の地域移行先の軟式野球が月２回のみの活動と知り、市外の軟式野球クラブチームで考えています。 地域移行先があまり活発でない状態で、土日の部活動が無くなっている事に疑問を抱きますが、移行期間中でも子どもたちのスポーツの場が江南市内でしっかりと確保していただけると助かります。

3．子どもは、試合を目指して頑張っていきたいと話しています。現状、試合ができる種目が少ないと認識しています。指導者不足が大きな課題かと思いますが、子どもたちのやる気を引き出せる環境を作っていただきたいです。
4．今まで毎週土日終日、練習をして体力をつけてきたのにそれが中学になると平日も数日、土日も両方ではないと聞きました。となると子供のやる気や体力が落ちたりなど支障が出るのでは？との不安があります。 地域クラブに入ってクラブチームにも所属すれば練習の回数は増やせますが、教え方や練習の違いが子供にとっては混乱してしまうのではないか？などの不安もプラスしてあります。 指導者不足なのは承知しておりますが子供の活動場所を何とか現状維持してあげたいと思っております。
5．特にありません。いつも良くしていただきありがとうございます。
6．高校に入った時に部活に入りたいと思っても、経験がないため不安です。
7．部活のあり方に、教師の位置付けが子どもたちにとって、学業の一貫であることが常に意識させていたと思うが、今後が不安
8．先生へのご負担がかかるのはわかるのですが、部活がなくなったのはとても残念です。指導者など外部から雇ってきてもらうことはやはり難しいのでしょうか。 いろいろ考えて本人の希望もありクラブチームに進むことにしましたが、部活と思うととても金銭的負担も大きく、遠征費や試合会場などへの送迎などもあり、とても親の負担が大きく不安でいっぱいです。 外部から指導者を雇ってみんなでお金を負担した方がそういう負担が減るのではと思います。 ただでさえ、小学校も中学校も宿題もない学校なので、塾など習い事の負担も増える一方なのに…先生方への負担は減っていますが、家庭への負担がどんどん大きくなっています。
9．コンビニ支払 OK にしてほしい
送迎問題
中学 2 年の兄は夏休み部活がないと時間を持て余している
10. 外部から指導者よぶなど、部活をやってほしいです。 地域クラブだと活動日数が少なく、大会も出られないなど、満足にスポーツできない。 かなり負担が大きいが、クラブチームに入るしかない。
11. 野球の地域クラブが活発な活動をしていないと聞きました。せっかくスポ少を通して野球が好きになったのですが、試合に出たい、上手くなりたいという気持ちを尊重してあげたいので、江南市でもぜひそういった活動の場を設けていただきたいです。
地域クラブやクラブチームの実態を知らないので何とも言い難いところはありますが、新しい取り組みとなると、運用面などで不慣れな事も多々出てくるかと思います。 それであれば、既に稼働しているスポ少の枠を中学校まで広げるという選択肢もあるのではないかと思います。 もちろんそこでも指導者の確保などクリアすべき点は出てくるかと思いますが、ゼロから始めるよりスムーズなのではないかと思います。
学校の先生の働き方改革には賛成です。しかしながら、中学在学中に運動をしたい子供たちにとって、運動部加入は必須であり、全国的な子供の運動能力向上に必要なものと思います。地域クラブではチームプレーが難しく、多感な年ごろの中学生にとっては他校の子供たちと打ち解けるに至りません。外部コーチを持ち、学校内で運動できる環境を希望いたします。